

専門(多肢選択式)試験問題

注 意 事 項

- 問題は **105 題(111 ページ)**あります。次のとおりⅠ部、Ⅱ部及びⅢ部を合計して **40 題**を解答してください。
 - **Ⅰ部(必須)**
No. 1 ～No. 5 (**5 題**)は必須問題です。受験者全員が解答してください。
 - **Ⅱ部(選択A、選択Bから一つ選択)**
選択A又は選択Bのどちらか一つを任意に選択し、**15 題**を解答してください。
答案用紙の「**選択**」の欄には、「**選択A**」を選択した場合は「**a**」、「**選択B**」を選択した場合は「**b**」をマークしてください。**マークされた一つの「選択」以外の問題は採点されません**ので、注意してください。
選択A(心理系) : No. 6～No.20(**15 題**)
選択B(教育・福祉・社会系) : No.21～No.35(**15 題**)
 - **Ⅲ部(14科目から4科目選択)**
14科目70題(No.36～No.105)から任意の4科目を選択し、計**20 題**を解答してください。
なお、4科目を超えて解答しても超えた分については採点されません。(解答している問題番号に対応する科目が選択されたものと認定されます。どの科目を選択したかを答案用紙に記入する必要はありません。)
- 科目別構成の詳細は、この問題集の**裏表紙**に掲載されていますので、解答開始までによく読んでおいてください。
- 解答時間は **3 時間 30 分**です。
- この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
- 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
- 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏 名
	人間科学		

指示があるまで中を開いてはいけません。

I 部(No. 1～No. 5)

I 部は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 1】 自己に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. A. バンデューラは、行動変容に影響を及ぼす予期を効力予期と結果予期に区別した。そして、「ある行動がある結果を導くだろう」という効力予期を自分がどの程度もっているかという認識を、自己効力感と呼んだ。自己効力感は、実際の遂行による成功体験によって高まるものであり、モデリングのように、成功している他者の観察という代理経験では高まらないことが示されている。

イ. E. T. ヒギンズは、セルフディスクレパンシー理論を提唱し、現実自己、理想自己、義務自己(当為自己)という自己表象の間のずれと否定的な感情との関係について論じた。そのうち、理想自己と現実自己との間にずれがあると、落胆に関連する感情を経験することになる。

ウ. A. フェニグスタインらは、自己意識を公的な側面と私的な側面に分けた。自己意識には個人差があり、公的自己意識の高い者は、私的自己意識の高い者に比べて、より自己を分析し、自分の感情や思考を内的基準に合わせることによって一貫性を示そうとする特徴がある。また、公的自己意識の高い者は、自己分析によって特に内面に意識が向くため、抑うつとの関連が強いことが明らかになっている。

エ. M. ローゼンバーグは、他者との比較によって生じる優越感や劣等感ではなく、自己に対する肯定的又は否定的な態度のことを自尊感情(self-esteem)と考えた。また、自身を「非常によい(very good)」と感ずることではなく、「これでよい(good enough)」と感ずる程度が自尊感情の高さを示すと考えた。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 2】 教育基本法に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 教育基本法の前文では、教育の目指す理想を掲げるとともに、「個人の尊厳」や「公共の福祉」の尊重等が掲げられている。戦前及び戦時中には、教育の基本理念が世の中に広く示されることはなかったが、終戦後、愛国教育、軍国主義教育から転換したことを際立たせるため、教育基本法制定時に前文が置かれた。
- B. 教育基本法第3条では、生涯学習の理念が掲げられているが、同条は平成18年の改正によって新設されたものである。昭和61年の教育改革に関する臨時教育審議会の答申*では、学習者の主体性を明確にするため、それまで使用されていた「生涯教育」に代わり、「生涯学習」という用語が用いられた。
- C. 教育基本法第14条では政治教育について規定しているが、平成27年に公職選挙法が改正されて選挙権の対象が18歳以上へと引き下げられたことから、18歳以上の生徒による、学校の構内での選挙運動や政治的活動については、学校が制限又は禁止することは一切できない。また、教員が、18歳以上の生徒に対して党派的な教育を行うことが認められている。
- D. 教育基本法第15条では、学校における政教分離の原則について規定しているが、国公立学校であっても、学校の設置者が必要であると認めるときは、特定の宗教のための宗教教育を行うことができる。また、宗教法人が設置する私立学校においては、宗教教育を行う際は、児童生徒の思想・良心の自由に反しないよう努めることとされている。

* 教育改革に関する第二次答申(昭和61年4月)

1. A
2. B
3. A、D
4. B、C
5. C、D

【No. 3】 貧困や子どもの貧困に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. 貧困に関する社会調査には、19～20 世紀英国における C. ブース、B. S. ラウントリーらの貧困調査、明治・大正期の我が国における横山源之助らの下層社会調査、今日の産業国・開発途上国の貧困調査等、多くの蓄積がある。横山源之助は、東京の貧民や職人、手工業や機械工場の労働者、小作人の状態を、これらの側に立って調査・分析し、下層社会を社会構造の中に位置付けた『日本之下層社会』を刊行した。

イ. 貧困を定義する際に一般的に用いられる概念が、「絶対的貧困」と「相対的貧困」である。絶対的貧困とは、生存のための最低生活費を下回る収入や生活費の状態のことをいう。それに対して、相対的貧困とは、社会の一員として生活するための最低限の水準を下回る状態を指す。厚生労働省等の統計で使用される相対的貧困率は、等価可処分所得(所得から所得税や住民税、社会保険料等を差し引き調整した額)の平均値の半分に満たない世帯の割合を表す。現在の我が国の生活保護費の基準は、絶対的貧困概念を基にしている。

ウ. 「2022(令和4)年 国民生活基礎調査」(厚生労働省)によれば、令和3年の我が国の子どもの貧困率は約 16 % と算出されており、約 6 人に 1 人が貧困世帯の子どもとなる。平成 24 年の子どもの貧困率は約 12 % で、約 8 人に 1 人が貧困世帯の子どもであり、その割合は増加している。また、令和3年において、子どもがいる現役世帯のうち、大人が 2 人以上いる世帯は子どもの貧困率が約 12 % であるのに対して、大人が 1 人の世帯の子どもの貧困率は約 55 % に及んでいる。

エ. 子どもの貧困の背後には、母子世帯の存在もあるといわれている。「令和3年度 全国ひとり親世帯等調査」(厚生労働省)によれば、全国の母子世帯は約 120 万世帯と推計されている。母親の就業率は約 86 % であり、母子世帯の多くの母親が就業している。しかし、母親の平均年間就労収入は 236 万円にとどまっており、世帯全員の平均年間収入も 373 万円にとどまっている。児童のいる世帯全体の平均年間収入は 813.5 万円であるため、これと比べると大きな開きがある。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 4】 我が国の少年犯罪の状況とその対応に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 令和6年における20歳に満たない者による刑法犯の検挙人員を男女別にみると、男子と女子の数は概ね同数となっている。罪名別にみると男女で異なる傾向があり、男子で最も多いのが窃盗であり、次が傷害である。女子で最も多いのが恐喝であり、次が横領である。なお、特殊詐欺*による20歳に満たない者の検挙人員は、約2,300人である。
2. 少年法では、罪を犯した少年(犯罪少年)及び小学校修了年齢に満たないで刑罰法令に触れる行為をした少年(触法少年)については、家庭裁判所は審判に付すとされている。保護者の正当な監督に服しない性癖があるなど、その性格又は環境に照らして、将来、罪を犯し、又は刑罰法令に触れる行為をする虞^{おそれ}のある少年(虞犯少年)については、少年法に基づく家庭裁判所の審判によらず、児童福祉法に基づき、児童自立支援施設の長が措置を決定するとされている。
3. 少年法における「少年」とは、20歳に満たない者であるが、民法における成年年齢が18歳に引き下げられたことなどを受け、令和4年に施行された改正少年法では、18歳、19歳の少年を特定少年と呼称し、17歳以下の少年とは異なる特例を定めた。例えば、家庭裁判所が検察官に送致できる事件に、罰金以下の刑に当たる事件も含めることなどが挙げられる。
4. 少年犯罪に対する手続として、司法警察員は、家庭裁判所の審判に付すため必要があるときは、観護措置の決定により、少年を児童相談所一時保護所に送致する。この場合、児童相談所一時保護所は、送致された少年を収容して、医学、心理学、教育学、社会学その他の専門的知識及び技術に基づいて、収容審判鑑別を行うとともに、必要な観護処遇を行う。
5. 特定少年が犯した罪については、保護処分が行われず、刑事事件として取り扱われる。その際に氏名、年齢、職業、住居、容貌などによって犯人が誰であるかが分かるような記事・写真等の報道(推知報道)は原則として禁止されるものの、特定少年が20歳を超えた時点で推知報道の禁止が解除される。

* 被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振込みその他の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪の総称。現金等を脅し取る恐喝及びキャッシュカード詐欺盗を含む。

【No. 5】 測定における信頼性・妥当性に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 古典的テスト理論では、尺度得点が真値と誤差によって表現され则认为。真値は、尺度得点の期待値であり、これは、ある個人に対して同一の尺度による測定を無限回繰り返したときに得られる尺度得点の平均と考えられる。そのため、ある時点において、当該人物から得られた尺度得点が、当該人物の真値と必ずしも一致するとは限らない。
2. 正の相関関係をもつ二つの変数を考えたとき、それぞれの信頼性が低い二つの観測変数間の相関係数は、真値よりも大きい値になる。相関係数の真値を知ることはできないため、得られた相関係数の値及び信頼性から、その大きさの度合いを推定することはできない。よって、調査の設計段階において、可能な限り信頼性を向上させる工夫が必要である。
3. 検査や尺度を評価する上で重要な観点として、信頼性と妥当性という概念がある。測定の信頼性が十分であれば、高い妥当性が保証できる一方、測定の信頼性が十分でなくとも妥当性が高ければ、良い検査や良い尺度として評価することができる。
4. 検査や尺度によって得られる測定値には、誤差が含まれると考えられる。誤差のうち、検査者による測定が不可能で、捉えきれない要因によって生じる誤差を標準誤差、被検査者の検査時における体調の良し悪し等、ランダムに現れると考えられる誤差を系統誤差という。古典的テスト理論においては、この両方の誤差に着目して信頼性を求める。
5. 構成概念妥当性を構成する証拠の一つに、基準関連妥当性がある。基準関連妥当性は、関心のある尺度全体の平均得点を基準としたときに、当該尺度を構成する各項目得点の平均値のばらつき具合を評価することによって示される妥当性である。基準関連妥当性が示されれば、構成概念妥当性が示されることになる。

Ⅱ部(No. 6～No. 35)

Ⅱ部は**選択問題**です。**選択A(心理系)**、**選択B(教育・福祉・社会系)**のどちらか一つを任意に**選択**し、**15題を解答**してください。

答案用紙の「**選択**」の欄には、「**選択A**」を選択した場合は「**a**」、「**選択B**」を選択した場合は「**b**」をマークしてください。**マークされた一つの「選択」以外の問題は採点されません**ので、注意してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

No. 6～No. 20 はⅡ部選択A(心理系)です。

選択A、Bのどちらか一つを任意に選択し、15題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 6】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、解答に使用する語句は、必要に応じて複数形になるものとする。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. chemical	hemisphere	receptive field	complicated
2. chemical	orientation	homunculus	basic
3. electrical	hemisphere	receptive field	basic
4. electrical	orientation	homunculus	basic
5. electrical	orientation	receptive field	complicated

【No. 7】 古典的な発達理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. G. S. ホールは、発達心理学の創始者であり、代表的著作『子供の誕生』において「子供」という概念を生み出した。ホールは、C. ダーウィンが示した「系統発生は個体発生を繰り返す」という進化論を基に、自身の発達心理学を発展させた。
2. A. L. ゲゼルは、遺伝要因の発現が発達の主要な要因と考える成熟優位説を提唱した。ゲゼルは、双生児研究から、内的な準備状態であるレミニセンスが整って初めて学習が成立するとし、成熟した時に能力を最大限発揮できるように、レミニセンスを整えるための早期の訓練が重要であると主張した。
3. J. B. ワトソンは、発達の主要な要因として個人の生育環境の影響を重視する環境説の立場を取り、J. ロックが示したタブラ・ラサ説を批判した。また、ワトソンは、内観法を用いて、人が環境をどのように経験し、発達していくのかを明らかにした。
4. H. ルクセンブルガーは、発達には遺伝要因と環境要因が乗算的に影響を及ぼすという輻輳説を唱えた。また、W. シュテルンは、ルクセンブルガーの輻輳説の考えを分かりやすく図式化することで、心理的な性質に対する遺伝要因と環境要因の影響力の比率を示した。
5. A. R. ジェンセンは、心身の発達には遺伝と環境の両要因が関与しており、環境は閾値要因として働くという環境閾値説を提唱した。この説は、身長や体重のように、極端に不利な環境でない限り、その遺伝的素質が現れるものもあれば、絶対音感のように、環境条件が整って初めてその遺伝的素質が顕在化する形質もあるという考え方である。

【No. 8】 色の知覚に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 太陽光の下で見るレモンも、屋内の照明の下で見るレモンも、どちらも黄色く見える。屋内でも屋外でも、同じ色の洋服は同じ色に見える。このように、照明光の種類が変化しても、物体や面の色はほぼ同じに見える現象を演色性と呼ぶ。目に入る光の強さは、照明の強さと物体表面の反射率の和で決まる。太陽光と室内照明では光の波長が異なるにもかかわらず、色が大きく変わって見えないことは、照明の変化の影響を差し引いて対象の色を見るメカニズムの存在を示唆する。
2. 緑の背景上にある灰色の四角形は、同じ灰色の四角形を白の背景上に置いた場合に比べて、赤みがかって見える。こうした色の対比は、背景の色の混色が生じることによって起こる。混色とは、加法混色の場合には元の色と合成すると黒色になる色であり、減法混色の場合には合成すると有彩色になる色である。色の対比は、周囲を囲む領域に対して囲まれる領域が小さいほど効果が大きいことが知られている。
3. 同じ色を見続けていると色味が次第にあせてくる。例えば、青いサングラスをかけると、はじめは周囲が青く見えるが、しばらくすると気にならなくなり、サングラスをかけていても、周囲がかける前と同じような色に見えるようになる。このように、特に色味(色相や彩度)に対する感度を変化することを色順応という。この現象が生じる主な理由は、網膜の錐体細胞の感度の変化である。青いサングラスの例は、S、M、L錐体のうちS錐体の感度の低下によって説明できる。
4. 色覚のタイプは多様である。1型3色覚は、独立した3色(三原色)の混合によって全ての色を作ることのできる色覚である。1色覚は、1型3色覚と同様に、混合に当たって3色を必要とするが、混合の比率が1型3色覚とは異なる色覚を指す。2型3色覚は、2色の混合によって全ての色と等しく見えるようにできる色覚である。2型3色覚の場合の全ての色とは、2色を混合してできる全ての色という意味である。
5. 「バナナは黄色」、「郵便ポストは赤色」のように、特定の物体に対して記憶されている典型的な色のことを進出色という。実際の色よりも鮮やかであるとされることが多いが、物体によっては鮮やかさが低いという報告もある。物体と色の結び付きの強さを意味する連合強度が高い物体は進出色をもち、色がその物体の認識を助けるともいわれる。進出色は、記憶として保持されているだけでなく、色知覚そのものに影響することもある。

【No. 9】 注意に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. D. ラベルジュによる実験の参加者は、単語中央の文字を特定する第1課題及び単語全体をその意味により分類する第2課題を行った。課題遂行中に、単語内のいろいろな位置に提示されたプローブ刺激への反応時間を計測したところ、第1課題では、プローブ刺激の位置に依存せずに反応時間が等しくなった一方で、第2課題では、単語中央に提示されたプローブ刺激への反応時間が遅くなった。ラベルジュは、注意はスポットライトのように機能し、課題内容にかかわらず注意の範囲は固定されていると主張した。
2. M. I. ポズナーらは、外発的注意を向けさせる手がかりを提示した後に標的を提示し、標的検出にかかる反応時間を計測した。手がかりと標的との時間間隔が300ミリ秒を超えると、両者の位置が一致している条件における反応時間よりも、一致していない条件における反応時間のほうが短くなった。この現象は復帰の抑制と呼ばれており、内発的注意を向けさせる手がかりを提示した場合には生じないという報告がある。
3. J. E. レイモンドらは、高速系列視覚提示法により、いろいろな文字を同じ位置に次々と提示した。実験参加者の課題は、この文字系列の中に埋め込まれた第一標的と第二標的を検出することであった。実験の結果、第一標的の提示直後から約500ミリ秒にわたって、第二標的の有無の判断が容易になることが分かった。そこでレイモンドらは、第一標的検出後に「注意の瞬き」が生じ、その結果として文字処理が促進されたと考えた。
4. R. A. レンシンクらは、情景認識における注意の影響を検討するために、フリッカー法により、情景画像Aとそれを部分的に変化させた情景画像Bを交互に提示し、実験参加者に画像の変化箇所を報告させた。すると、画像変化の発見までに時間が掛かるという「変化の見落とし」が生じた。しかし、AとBの間に空白の画面を短時間挟み、光の過渡的变化を手がかりにした検出を可能にすると、画像の変化箇所は容易に発見できるようになった。
5. A. M. トリーズマンらは、視覚探索における特徴探索と結合探索の違いを説明するために、特徴統合理論を提唱した。この理論では、まず選択的注意が働き、複数の視覚特徴が統合される。そのために、結合探索における反応時間は画面上に提示される刺激数に依存しない。続いて個々の視覚特徴に関するマップが自動的に形成され、特徴探索が行われる。結合探索の場合と異なり、特徴探索においては画面上の刺激数に応じて反応時間が増加する。

【No. 10】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

1950年代、心理学者のF. ローゼンブラットは、脳のニューロンを模倣したニューラルネットワークモデル「」を提案した。視覚パターンを認識する能力をもつの特徴は、学習により問題を解くことができる点にあった。このモデルでは、ニューロンの働きを模した「ユニット」と呼ばれる機能単位を多数結合させ、同時並列的に情報処理を行う。情報はユニット間ののパターンとして分散的に表現され、学習によりが調整される。

その後、には学習できる問題の種類に限界があることが指摘されたが、1980年代に、D. E. ラメルハート、J. L. マクレランド、G. E. ヒントンは、階層化させたニューラルネットワークにおいてを用いると、より複雑な問題が学習できることを示した。モデルと呼ばれる、こうしたニューラルネットワークを用いると、単語認知、発話理解、連想記憶といった、より高度な情報処理が可能になった。

モデルによる認知機能への数理的アプローチは、人工知能(AI)研究の源流の一つとなった。モデルがもつ階層的な構造を更に深層化することにより、AIの根幹を成す学習手法であるディープラーニングへと発展していった。

A	B	C	D
1. パーセプトロン	活性化拡散	ヘップ則	ACT
2. パーセプトロン	結合荷重	誤差逆伝播法	PDP
3. パーセプトロン	結合荷重	ヘップ則	ACT
4. プロダクションシステム	活性化拡散	誤差逆伝播法	PDP
5. プロダクションシステム	結合荷重	誤差逆伝播法	ACT

【No. 11】 情動に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. W. B. キャノンと P. バードは、情動刺激を受けると視床が活性化され、視床から大脳皮質に刺激が届けられて情動経験が生じるとする中枢起源説を提唱した。中枢起源説では、刺激によって生じた情動経験が、更に身体反応を引き起こすと考えられている。このことから、キャノンとバードは、特定の情動に対して自律神経系の特定の活動が対応していると主張した。

イ. S. シャクターと J. シンガーは、情動二要因説を提唱し、これを検証するために実験を行った。実験参加者を、薬剤の正しい効果の説明を受ける群と受けない群にランダムに割り振り、エピネフリンの注射をした後、陽気に振る舞う又は怒りを露わにする実験協力者のいる待合室に案内した。その結果、薬剤の効果について説明を受けた群では、特定の情動経験は生じず、その効果について説明を受けなかった群では、実験協力者と同じ情動を経験したと報告した。

ウ. J. E. ルドゥは、情動が脳内の独立した二通りの経路によって制御されると主張した。この二通りの経路のうち、視床から感覚皮質を介して扁桃体へ至る神経連絡を高次経路、視床から扁桃体への直接的な神経連絡を低次経路と呼んだ。低次経路は、高次経路より粗い情報処理しかできないが、より速く処理を行うことができる。

エ. M. ルイスは、生後 3 年間の情動発達を説明するモデルを示した。ルイスによると、情動は、快・不快の二つによって構成される一次的情動(primary emotions)から始まるとされる。その後、自己意識と自己評価が発達することで複雑な情動が経験されるようになり、喜び、怒り、興味、嫌悪、悲しみ、恐れといった自己意識的情動が出現するようになる。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 12】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。
ただし、解答に使用する語句は、必要に応じて頭文字が大文字になるものとする。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. fear-eliciting	anger	accelerated	The number of smiles
2. fear-eliciting	contentment	accelerated	Time (in seconds)
3. fear-eliciting	contentment	decelerated	The number of smiles
4. joy-eliciting	anger	accelerated	Time (in seconds)
5. joy-eliciting	contentment	decelerated	The number of smiles

【No. 13】 パーソナリティのビッグファイブ(五因子モデル)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 人の特徴を細かく分けた特性の組合せによって、その人らしさが作られるという考え方を、パーソナリティの類型論という。類型論では、それぞれの特性がどの程度であるかを数値化し、その値の程度によって、その人らしさを表現する。H. J. アイゼンクは過去の様々な研究を調べ、パーソナリティを表す語彙には五つの共通した因子がみられると指摘し、これをビッグファイブと呼んだ。
2. パーソナリティのビッグファイブを構成する特性の一つである開放性とは、優しさや寛大さ、思いやり、他者への信頼や協力などの諸特性をまとめた次元である。ビッグファイブの質問紙の一つである NEO-PI-R では、開放性の下次元として、優しさ、よい感情、良心性、温かさ、アイデア、コンピテンスの六つが挙げられている。
3. セルフコントロールや責任感、勤勉さ、規律正しさ、規則を守る傾向の個人差を反映したビッグファイブの特性は、正直さー謙虚さと呼ばれる。正直さー謙虚さの高い人は、計画を立てて物事に臨み、集中して作業に取り組み、効率的で誤りが少なく、頼りがいがある。一方、正直さー謙虚さの低い人は、他者を攻撃したり批判したり、温かみに欠ける接し方をする傾向がある。
4. 神経症傾向は、ビッグファイブの特性の一つであり、無口で引っ込み思案、一人でいることや穏やかな気分を求める傾向を表す。神経症傾向の高い人は、ネガティブな感情を頻繁に経験し、かつ、程度の小さい比較的中立な刺激に対してもそれを脅威と解釈し、大きな反応を示しやすい。神経症傾向の高さは、学業成績や職務成績の高さと正の相関があることが、繰り返し明らかにされている。
5. ビッグファイブにはより上位の因子が存在しており、五つの因子を安定性因子(α)と柔軟性因子(β)という二つの上位因子にまとめられることが明らかにされている。また、ビッグファイブの上位二因子の更に上に、パーソナリティの一般因子(A General Factor of Personality : GFP)と呼ばれる単一因子の存在も提案されている。

【No. 14】 パーソナリティの理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. C. G. ユングは、人間には、心的エネルギーの向かう方向によって、内向－外向という二つの根本的態があることに加え、四つの心理的機能として思考、感情、感覚、直観の区別を考えた。そして、根本的態と心理的機能の組合せから八つの基本類型を想定した。心理的機能のうち、思考と感情、感覚と直観は対立関係にあり、個人が主として依存しているものを優越機能、その対立機能を劣等機能と呼ぶ。

イ. A. アドラーは、個人心理学(individual psychology)という理論体系を創始した。個人心理学の理論的特徴として、①目的論、②全体論、③対人関係論、④認知論が挙げられる。また、アドラーの人格理論では、個人の目標志向性や独自性、自己決定を表すものの見方や考え方、生き方をライフスタイルと呼んでいる。アドラーの理論は、集団心理療法や家族療法、短期療法の先駆になっており、育児・教育分野への貢献もみられる。

ウ. E. H. エリクソンは、人が生まれてから死に至るまでのパーソナリティの生涯発達のプロセスを、漸成発達という考え方をを用いて理論化し、人間の一生をアイデンティティと呼んで、八つの発達段階に区別している。各発達段階は、段階ごとの発達主題によって特徴付けられている。児童期(学童期)の発達主題は、「勤勉性 対 劣等感」とされ、この主題の解決によって「意志」を獲得すると考えられている。

エ. 土居健郎は、精神分析過程で観察される依存現象として「甘え」に注目し、日本人の精神構造、社会文化構造、精神病理一般を理解するための鍵概念として用いた。甘えは、母親的对象に一体化を求めて結び付こうとする、乳幼児期に特有の欲動であり、甘えが満たされないと「すねる」、「ひがむ」などの心情が生まれる。さらに、こうした発達早期の甘えの抑圧や欠如は、知的発達症や自閉スペクトラム症などの神経発達症の基礎を形成する。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 15】 次は、共感性に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、Bには、㉠又は㉡のいずれかが入る。

共感性とは、「他者の情動状態を知覚することに伴って生起する代理的な情動反応」を指す。M. L. ホフマンは他者の苦悩や痛みへの共感を共感的苦痛と呼んだが、このときの感情反応には、個人的苦痛と の二つがある。両者は、利己的行動と利他的行動との関連において、。また、共感性と類似ないし共感性に包含される概念に がある。 は、他者に対する悲しみや心配から成る感情反応である。

ホフマン(2008)は共感の喚起に関する様式を五つに整理している。彼によると、五つのうち「動作模倣(mimicry)」、「」、「」の三つは自動的で前言語的なものであり、共感性の基礎と考えられている。

Bの候補

㉠：個人的苦痛は利己的行動を動機づけ、 は利他的行動を動機づける

㉡：個人的苦痛は利他的行動を動機づけ、 は利己的行動を動機づける

A	B	C	D	E
1. 共感的関心	㉠	同情	条件づけ ^{*1}	直接的連合 ^{*3}
2. 共感的関心	㉠	シャーデンフロイデ	視点取得 ^{*2}	言語を媒介とした連合 ^{*4}
3. 共感的関心	㉡	同情	視点取得	直接的連合
4. 情動伝染	㉠	シャーデンフロイデ	視点取得	言語を媒介とした連合
5. 情動伝染	㉡	同情	条件づけ	直接的連合

*1 条件づけ：conditioning

*2 視点取得：perspective taking

*3 直接的連合：direct association

*4 言語を媒介とした連合：verbally mediated association

【No. 16】 次は、知能とパーソナリティの生涯発達に関する記述であるが、A～Fに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

生涯発達の視点から知能を構造化した理論として、R. B. キャッテルらの理論が挙げられる。彼らは、知能を神経系の機能の下で決定される と、経験の積み重ねによって獲得される に分類した。そして、 は25歳頃をピークとして加齢とともに下降していくのに対し、 は加齢に際しても低下しにくいことが言及された。その後、K. W. シャイエらは、横断的研究と縦断的研究を組み合わせた による検討を行い、 と の二つの知能のピークが、それ以前に明らかにされていたよりも、より 現れることを示した。

パーソナリティの生涯発達については、文化や国によって細かな違いは見られるものの、人は加齢とともに情緒的に安定し、課題などにしっかりと取り組めるようになり、他の人との関係もより友好的なものになる傾向があることが示されている。この全般的な発達のパターンは、 としてまとめられている。また、成人期にパーソナリティが変化する理由として が知られている。 とは、社会の中で成人が様々な社会的役割を担い、それにコミットすることにより、パーソナリティが刺激を受けて変化することを主張するものである。

A	B	C	D	E	F
1. 結晶性知能	流動性知能	階段法	早く	社会情動的選択性理論	社会投資理論
2. 結晶性知能	流動性知能	系列法	早く	成熟の原則	集団社会化理論
3. 流動性知能	結晶性知能	階段法	遅く	社会情動的選択性理論	集団社会化理論
4. 流動性知能	結晶性知能	系列法	遅く	成熟の原則	社会投資理論
5. 流動性知能	結晶性知能	系列法	早く	成熟の原則	集団社会化理論

【No. 17】 次は、ある実験手続に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

調整法によって、ミューラー＝リヤー錯視における錯視量を測定する実験を計画している。調整法では、上昇試行と下降試行で測定結果が異なることが多い。また、外向図形と内向図形を並べる際の左右の配置も測定結果に影響する可能性がある。そこで、次のような試行の順序で実験を実施することを考えた(「右」、「左」は内向図形の位置を表すものとする。)

右・上昇、左・下降、左・上昇、右・下降、左・上昇、右・下降、右・上昇、左・下降

しかし、この実施順では、上昇試行と下降試行の出現が規則的になっているため、順序効果を できない。また、 試行が常に 試行に先行するので、平均的には 試行の方が測定結果が安定するといった練習効果が生じるかもしれない。

そこで、次のような修正案が提示された。

右・上昇、左・下降、左・上昇、右・下降、左・下降、右・上昇、右・下降、左・上昇

この方式にすることで、上昇試行も下降試行も を等しくできるため、順序効果は同等となることが期待できる。

しかし、この方式であっても、順序効果が時間に対して である場合には、異なる種類の試行の間で順序効果が等しくならない。この問題に対処する方法の一つには、ある実験参加者には元の系列を、別の実験参加者には次のような裏返しの系列を実施することが考えられる。

左・下降、右・上昇、右・下降、左・上昇、右・上昇、左・下降、左・上昇、右・下降

A	B	C	D	E
1. 相殺	上昇	下降	平均順位	非線型
2. 相殺	上昇	下降	接触頻度	線型
3. 相殺	下降	上昇	接触頻度	非線型
4. 一定化	上昇	下降	平均順位	線型
5. 一定化	下降	上昇	平均順位	線型

【No. 18】 次は、心理学研究に用いられる観察法に関する記述であるが、A～Fに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

人間や動物の行動を自然な状況や実験的な状況の下で観察、記録、分析し、行動の質的・量的特徴や行動の法則性を解明する方法を、観察法と呼ぶ。実証研究に役立つデータを得るために、心理学をはじめとする諸科学では、様々な観察の手続が考案されてきた。観察が一面的にならないようにする手法として、関心対象の事象が生じるかどうか、どのように生じるかを一定の時間間隔で記録する **A**、関心対象の事象が生じやすいような場面や状況を選んで集中的に観察を行う **B**、関心対象の事象を前もって特定しておき、それが生じたときに、その前後の出来事とともに記録していく **C** などが知られている。

研究目的と関心対象がはっきりしているときには、観察を枠付けるカテゴリーや、その属性を評定する尺度を準備した上で、対象の諸側面を記録する **D** がなされる場合がある。また、明確な仮説があり、観察の場の条件が統制できるような場合には、その条件と関心対象の行動との関係を検証するために、**E** が行われることもある。観察の目的や仮説を知らない独立の観察者を使って、観察にゆがみを生じさせない工夫が行われることもまれではない。

以上のような工夫は、観察の焦点が決まっている場合に、観察をより客観的にしていく点で特に有効であるが、近年では、関心対象の現象について幅広い文脈との関連を見いだしながら新たな仮説を生成していく方向においても、観察法が見直されている。研究対象に対して操作を加えず、日常的な場면을そのまま観察する方法を **F** と呼ぶ。

A	B	C	D	E	F
1. 時間見本法	場面見本法	事象見本法	間接観察	アクション・リサーチ	非参加観察法
2. 時間見本法	場面見本法	事象見本法	組織的観察	実験的観察	自然的観察
3. 時間見本法	場面見本法	持続時間記録法	間接観察	実験的観察	非参加観察法
4. 場面見本法	時間見本法	持続時間記録法	組織的観察	アクション・リサーチ	非参加観察法
5. 場面見本法	時間見本法	持続時間記録法	組織的観察	実験的観察	自然的観察

【No. 19】 次は、欠測データ(missing data)に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、C及びDには、㉠、㉡、㉢のいずれかが入る。

調査や実験などを通してデータを収集する際には、データの欠測が様々な状況や要因によって生じる。そのため、欠測のない完全データではなく、欠測のある不完全なデータを分析することがある。このとき、欠測値の扱いは、「欠測のないデータのみを扱う」方法と「何らかの方法を用いて欠測値の情報を補う」方法に大別される。前者の方法には、分析に使用する変数において欠測データを含むデータを除外する **A** 削除と、全データにおいて欠測データを含むデータを除外する **B** 削除の二つがあるが、両者を比較すると、**A** 削除の方が、より多くのデータを分析に用いることができる。ただし、いずれの方法であっても、欠測が発生したメカニズムによっては、結果のバイアスが大きくなることがある。

欠測が発生するメカニズムは、以下の㉠、㉡、㉢に分けられる。例えば、がん患者におけるがんの進行度と苦痛度との関連を調査したとき、がん患者における苦痛度の高さによって調査への参加ができなくなる傾向があると、一部のがん患者のデータは欠測する。このときの欠測メカニズムは **C** である。他方、スクリーニング血液検査を行い、一定の数値以上を示した者にのみ再検査を求めたとする。このとき、一定の数値未満の者の再検査のデータは欠測する。このときの欠測メカニズムは **D** である。すなわち、相関係数の解釈をする際の留意点の一つとして知られる **E** は、**D** によって得られた不完全データに基づいて相関係数を算出したときに生じているといえる。

C及びDの候補

- ㉠：完全にランダムな欠測(missing completely at random：MCAR)：欠測が完全にランダムに発生しており、モデリングの対象となる変数及び関連する変数に依存しない場合
- ㉡：ランダムな欠測(missing at random：MAR)：欠測するかどうかの確率が観測値には依存するが、欠測値には依存しない場合
- ㉢：ランダムでない欠測(not missing at random：NMAR／missing not at random：MNAR)：欠測するかどうかの確率が欠測値に依存する場合

A	B	C	D	E
1. ペアワイズ	リストワイズ	㉡	㉢	選抜効果
2. ペアワイズ	リストワイズ	㉢	㉠	合併効果
3. ペアワイズ	リストワイズ	㉠	㉡	選抜効果
4. リストワイズ	ペアワイズ	㉠	㉡	選抜効果
5. リストワイズ	ペアワイズ	㉡	㉠	合併効果

【No. 20】 次は、回帰分析に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、Bには、㉠又は㉡のいずれかが入る。

ある二つの説明変数 x_1 、 x_2 を用いて目的変数 y を説明する重回帰モデル

$$y = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \varepsilon$$

を考える。ここで、パラメータ β_0 、 β_1 、 β_2 は推定する切片及び偏回帰係数であり、 ε は予測誤差である。さらに、それらパラメータと説明変数 x_1 、 x_2 を用いて予測値 $\hat{y}$ を $\hat{y} = \beta_0 + \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2$ で定義する。このとき、予測誤差 ε は $y - \hat{y}$ と表され、説明変数と予測誤差は A ある。 n 個の観測に基づく重回帰分析を実行する場合、 i 番目の観測データ ($i = 1, 2, \dots, n$) の目的変数の値を y_i 、その予測値を $\hat{y}_i$ と表すとする、B を最小にするように β_0 、 β_1 、 β_2 を推定する。

一般に、推定されたパラメータのうち偏回帰係数 β_2 は、C が目的変数 y に与える影響として解釈できる。ただし、 x_1 と x_2 の相関が非常に高い場合に、推定される β_1 、 β_2 の値が不安定になるという D の問題が生じることがある。また、モデルによる予測の正確さを表す指標として重相関係数があり、これは y と E との相関係数である。

Bの候補

$$\text{㉠} : (y_1 - \hat{y}_1)^2 + (y_2 - \hat{y}_2)^2 + \dots + (y_n - \hat{y}_n)^2$$

$$\text{㉡} : (y_1 - \hat{y}_1) + (y_2 - \hat{y}_2) + \dots + (y_n - \hat{y}_n)$$

A	B	C	D	E
1. 正の相関が	㉠	x_1 の値を一定としたときの x_2	多重共線性	$\beta_2 x_2$
2. 正の相関が	㉡	x_2	分散不均一性	$\hat{y}$
3. 無相関で	㉠	x_1 の値を一定としたときの x_2	多重共線性	$\hat{y}$
4. 無相関で	㉡	x_2	分散不均一性	$\beta_2 x_2$
5. 無相関で	㉠	x_1 の値を一定としたときの x_2	分散不均一性	$\hat{y}$

No. 21～No. 35 はⅡ部選択B(教育・福祉・社会系)です。

選択A、Bのどちらか一つを任意に選択し、15題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 21】 現代の教育思想に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. M. フーコーは教育における権力論者の一人であり、「経験学習」や「オキュペーション」といった概念を提唱した。フーコーは、権力は社会ヒエラルキーのトップが占有するものと主張し、権力に抵抗する教育実践を行うことで、生徒が適切な規律・訓練を身に付ける必要性を示した。
2. L. ヴィトゲンシュタインは教育における言語論者の一人であり、「言語ゲーム」や「ルール」についての分析を行った。ヴィトゲンシュタインが示した言語と「生活の形」との一体性を強調する「言語ゲーム」を授業分析の枠組みとして利用した研究もなされている。
3. N. ルーマンは教育におけるシステム論者の一人であり、「直観教授」や「陶冶」の重要性を提唱した。特に、ルーマンの着目するコミュニケーションでは、教師が綿密な教育計画の下に生徒一人一人に働きかけることで、全ての生徒が目的を達成できることを示した。
4. J. ロールズは教育における正義論者の一人であり、「セツルメント」や「クラブ活動」を中心とした教育を提唱した。ロールズは、社会全体が正しい基準に基づく活動を行うことで、人々が多様な正義を内面化することができるとし、文化相対主義の観点に立つ重要性を主張した。
5. N. ノディングズは教育におけるケア論者の一人であり、「自然主義教育」を提唱して「幼稚園」を世界で初めて創設した。ノディングズが開発した、子どもの発達段階に合わせてケアを行うための教具である「恩物」は、現在の幼児教育現場で広く使用されている。

【No. 22】 我が国の道德教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 明治・大正期における学校では 1890 年に発布された「教育勅語」に基づく道德教育がなされたが、道德に関する科目は設定されなかった。20 世紀に入り我が国が軍国主義に進む中で、教育勅語に基づく道德教育は否定され、より実学的な道德教育が目指された。
2. 第二次世界大戦終了後、GHQ の指導の下で民主主義社会の構築を目指した「道德の時間」が設定され、1998 年には中央教育審議会から「真・善・美」の調和を図ることを目指した、「心の教育」答申* に基づく国民教育の基盤としての道德教育が整備された。
3. 1998 年改訂の小学校学習指導要領から、道德は「教科」として位置付けられ、国語や算数といったその他の教科と同様に扱われるようになった。しかし、戦中の軍国主義的な道德科目である「国史」の反省を踏まえ、検定教科書の導入は現在に至るまで行われていない。
4. 2010 年代には、いじめ問題などを背景に道德教育の改善・充実のための方策が議論され、道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議で道德教育に関する評価等の在り方が検討された結果、質の高い多様な指導方法の確立を求める報告が提出された。
5. 現行の学習指導要領では、多様性に配慮した道德教育の必要性が指摘され、読み物教材の登場人物の心情を理解して寄り添うことを第一とする、徳目主義的な教育方法が採用されるようになった。また、教師が設定する正しい答えを導き出すための受容的・内省的な学びが目指されている。

* 「幼児期からの心の教育の在り方について(答申)」(平成 10 年 6 月)

【No. 23】 教育における心理的効果に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. ハロー効果とは、他者がある側面で望ましい(又は望ましくない)特徴をもっていると、その評価を当該人物に対する全体的評価にまで広げてしまう傾向のことである。例えば、教師が生徒をみる場合、成績の良い生徒は性格面や行動面でも肯定的に評価されがちであるのに対して、成績の悪い生徒は全ての面で問題があるかのようにみられやすい。
- B. ピグマリオン効果とは、B. F. スキナーによって提唱された、他者に対してもっている期待が成就されるように機能する傾向のことである。例えば、教師が期待している学習者に対しては、学習者への働きかけや学習者自身の意欲にかかわらず、教師が学習者の今後の成績向上を見込んで、実際の評価以上の評価を与えてしまうことがある。この効果は、教師期待効果とも呼ばれるが、このような仕組みは、意識的なものであることが多い。
- C. 学習転移とは、刺激の提示順序に応じて、記憶の成績が異なる現象のことである。リスト形式で提示された材料を記憶・学習する場合、リストの冒頭部で提示された項目の成績が優れていることを初頭効果、終末部で提示された項目の成績が優れていることを新近性効果という。また、リストを記憶後に休息をとることで、内容が脳内で整理され、刺激の提示順序による影響を受けなくなることを、スリーパー効果という。
- D. ブーメラン効果とは、説得の効果のうち、内容が及ぼす効果が時間の経過に伴って増加することである。例えば、教師が予習・復習の大切さを説いた際、最初は生徒に反発されても、時間が経つと生徒が自ら納得するようになることを指す。説得に失敗する要因としては、受け手自身の立場へのコミットメントや話題への自我関与が低い場合などがある。

1. A
2. B
3. A、D
4. B、C
5. C、D

【No. 24】 学校をめぐる行政組織に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 文部科学省は、教育行政を所掌していた文部省と科学技術を所掌していた経済産業省の資源エネルギー庁が統合された経緯から、教育行政を担当する部局に加えて、科学技術や研究を担当する部局が設置されている。また、外局として、文化や宗教を所管する文化庁、スポーツ施策を所管するスポーツ庁、教育 DX を所管するデジタル庁が置かれている。
2. 文部科学省の役割の一つとして、教育委員会が行う教育行政の許認可及び監督が挙げられる。
例えば、小中学校の一学級当たりの標準児童生徒数は地方教育行政法^{*1}によって定められており、市町村教育委員会は、同法によって定められた基準で学級編制を行わなければならない。全国で統一された水準の教育環境を確保するために、文部科学省から各学校へ視学を派遣している。
3. 教育委員会は、地域の公立学校と私立学校、保育所等の児童福祉施設、文化及びスポーツ等に関する事務を担当する。地方自治法を設置根拠としており、原則として全ての都道府県及び市町村への設置が求められているが、例外的に人口の多い地域については業務効率化のため複数の地方公共団体を併せた教育委員会の設置が認められている。
4. 教育委員会は、教育委員会の代表である教育委員長と教育委員、教育委員会事務局を統括する教育長によって構成されている。教育委員は議会によって任命され、教育委員長と教育長は委員間の互選によって決定される。また、首長と教育委員会の連携を強化するために教育委員会会議が設置され、教育の大綱を策定している。
5. 学校教育法で定められた設置者管理主義の原則に基づき、市町村教育委員会は、設置した小中学校の休業日や学校行事等を学校管理規則によって規定している。また、平成 10 年の中央教育審議会答申^{*2}において、学校が自主的・自律的に特色ある学校教育活動を展開できるための制度等の見直しが提言され、学校の裁量を拡大する方向で見直しに努めることとされた。

*1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

*2 「今後の地方教育行政の在り方について(答申)」(平成 10 年 9 月)

【No. 25】 次は、2015 年 9 月に開かれた「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択する国連サミットにて採択された「われわれの世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の前文の一部を抜粋したものであるが、A～D に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. poverty	excluded	Global Goals	human rights
2. poverty	excluded	Millennium Development Goals	freedom
3. poverty	left behind	Millennium Development Goals	human rights
4. hunger	excluded	Millennium Development Goals	human rights
5. hunger	left behind	Global Goals	freedom

【No. 26】 生活保護制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生活保護は、生活に困窮する者が、その利用し得る資産、能力、民法に定める扶養義務者の扶養及び他の法律に定める扶助、その他あらゆるものを、その最低限度の生活の維持のために活用することを要件として行われ、生活保護法の定める要件を満たす限り、生活保護を無差別平等に受けることができる。この原理を最低生活保障の原理という。
2. 生活保護は、現に保護を受けているとしないにもかかわらず、保護を必要とする状態にある要保護者、その扶養義務者、検察官又は市町村長の申請に基づいて開始するものとされる。また、生活保護は、個人を単位としてその要否及び程度を定めるものとする。ただし、これによりがたいときは、世帯を単位として定めることができる。
3. 生活扶助には、困窮のため最低限度の生活を維持することのできない国民健康保険の被保険者が支払うべき保険料相当額が含まれており、当該被保険者がその保険料を納付した場合、国民健康保険の保険者は、国民健康保険の被保険者である要保護者の疾病及び負傷に関して、診察、薬剤又は治療材料の支給、処置、手術その他の治療など、療養の給付と同じ内容の医療扶助を行う。
4. 教育扶助は、困窮のため最低限度の生活を維持することのできない者に対して、義務教育及び高等学校への就学に伴って必要な教科書その他の学用品、通学用品、学校給食などの事項の範囲内において行われるとともに、大学等の教育訓練施設に確実に入学すると見込まれる者に対して、一時金が支給されるものである。
5. 生活保護法は、国が必要な保護を行う対象を「生活に困窮するすべての国民」と定めている。最高裁判所は、ここにいう「国民」は日本国民を意味するものであって、外国人は、行政庁の通達等に基づく行政措置により事実上の保護の対象となり得るにとどまり、生活保護法に基づく保護の対象となるものではなく、同法に基づく受給権を有しないものというべきである旨を判示した。

【No. 27】 ソーシャルワーク実践のアプローチに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ストレングスモデルは、1950 年代に H. H. パールマンによって生み出された概念である。クライアントが直面している問題を切り分け、クライアント自身が対処可能な課題を設定して、クライアントが主体的に問題解決できるように支援するものである。
2. 問題解決アプローチは、M. ホワイトと D. エプストンによって提示されたアプローチである。クライアントが語るドミナントストーリーに耳を傾けて、問題を人から切り離し、ドミナントストーリーに代わるオルタナティブストーリーを強めることで、クライアントが問題解決に立ち向かっていくことを目指すものである。
3. 危機介入アプローチは、E. リンデマンや G. キャプランらの研究から発展したアプローチである。人は、回避できないストレスを感じたとき、精神的な苦痛に陥ることから、その状況に対して素早く介入することで情緒のバランスの回復を図るものである。
4. 行動変容アプローチは、D. サリービーや C. A. ラップらによって強調されたアプローチである。支援においてクライアントの長所や才能、さらにはクライアントの家族や所属集団、コミュニティ等の環境にある強みを生かそうとするものである。
5. ナラティブアプローチとは、E. トーマスらによって臨床場面で行われ、理論化されたアプローチである。ソーシャルワーカーがクライアントに対して、意図的に刺激や報酬をもたらすことで、望ましい行動を増やしていこうとするものである。

【No. 28】 我が国の救貧施策の歴史に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 明治時代に初めて成立した貧困者に対する一般的救済法は、明治7(1874)年に制定された恤^{じゆつきゆう}救規則である。誰の助けも期待できない困窮者を無告の窮民として公費による救済を行ったが、その他の者の救済は、人民相互^{じゆうぎ}の情宜として家族や親族、隣人などによる相互扶助によるべきとした。
- B. 昭和4(1929)年に制定された救護法は、米国の株価の大暴落に端を発した大恐慌の影響等による失業者数の増大を背景に、国の救貧制度の拡充を求める要望が高まる中、制定された。権利としての最低生活保障が確立され、要救護者による保護請求権が認められた。
- C. 第二次世界大戦後に制定された日本国憲法の理念の下に昭和25(1950)年に現行の生活保護法が制定された。その後の改正を経て、現在、保護の基準は厚生労働大臣が定め、保護の実施機関は都道府県知事、市長及び福祉事務所を管理する町村長とされている。
- D. 平成25(2013)年に制定された生活困窮者自立支援法は、現に生活保護を受給している者のうち、就労の可能性のある者を対象として、自立に向けた相談支援等を行うために制定された。公共職業安定所に相談支援員が配置され、家計相談や就労相談への支援を行うとされた。

1. A、B
2. A、C
3. B、C
4. B、D
5. C、D

【No. 29】 次は、É. デュルケムの学説に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

É. デュルケムは、『社会学的方法の規準』において、「Aとは、固定化されていると否とを問わず、個人のうゑに外部的な拘束をおよぼすことができ、さらにいえば、固有の存在をもちながら所与の社会の範囲内に一般的にひろがり、その個人的な表現物からは独立しているいっさいの行為様式のことである」と書いた。そして、個人から独立して外部的拘束を及ぼすAについてはBのように科学的に考察することを、社会学の第一の方法的規準とした。

最初の著作である『社会分業論』では、人口が増加し、分業がより複雑に展開するようになると、それまでの個々の村落や部族が並列して環節的な構造を成し、単純に結び付いていたような段階から、それぞれの単位が解体していき、より広い範囲での社会的分業が成立し、以前とは違って個々の単位が限られた機能を果たして他と互いに補い合うようなCの段階へと進んでいく、と述べた。

一方で、分業は病理学的諸形態を呈することがあり、中でも経済生活は法的・道徳的無規制状態（アノミー）に置かれているとし、その終息のために、欠落した諸準則の体系を構築できる集団であるDが形成されなければならないとした。Dは道徳的影響力をもち、個人のエゴイズムを抑制し、個人の心のうちに生き生きとした共同連帯の感情を絶やさぬようにし、弱肉強食の法則が商工業上の諸関係に露骨に適用されないようにすることが可能であるとしている。

A	B	C	D
1. 社会的事実	物	機械的連帯	国家又は政治社会
2. 社会的事実	物	有機的連帯	職業集団又は同業組合
3. 社会的事実	人	有機的連帯	国家又は政治社会
4. 社会システム	物	機械的連帯	職業集団又は同業組合
5. 社会システム	人	有機的連帯	国家又は政治社会

【No. 30】 自我や自己についての学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. C. H. クーリーは、第二次世界大戦中から戦後にかけて復員兵の診断を行い、彼らの症状を病理的なカテゴリーで論じることにより疑問を感じ、苦悩を経験している健常な人々という観点から捉え、「アイデンティティの危機」という見方を示した。また、人間には成長に応じた発達段階があり、その中で成人期とは「アイデンティティの危機」を乗り越えて、自分とは何かという問いに決着を付ける時期だと述べた。
2. 作田啓一は、『日常生活における自己呈示』を著し、「自己呈示」は他者の立場からみてふさわしい自己の在り方を他者に呈示することを前提としており、教室で私語を話す学生に教師が注意するのはその典型であるとした。また、自己が他者に対して、他者の特定の自己呈示を求めることを「ドラマトゥルギー」と呼び、人は他者の視点にふさわしい自己呈示をし、もう一方で、そのような呈示を他者にも強制するものであるとした。
3. E. ゴフマンは、人間の自我の発生する前提としての相互作用に注目し、人間は自らの行為の意味を他者の反応を見て知るのであり、このとき他者は、自らの行為の意味を映し出す鏡のようなものであるとして、「鏡に映った自我(鏡の中の自己)」について論じた。人間の自我は、こうした無数の他者との相互作用によって形成されていくのであり、自我形成において重要な影響をもつ関係性を「心的相互作用」と呼んだ。
4. G. H. ミードは、自我の発生期に最初におとずれるプレイ段階では、何かのふりをする「ごっこ遊び」が行われ、子供はこの段階で、親、先生、牧師、警官などの役割を演じ、他者の役割を取得するとした。そして、他者の態度を内面化してつくられる自我を me と呼び、その me に対する主体の反応を I と呼んだ。自我はこの I と me の二つの側面から理解されねばならず、ある集団の一員であるためには、それにふさわしい me をもたねばならないとした。
5. H. G. ブルーナーは、『精神分析入門』を著し、人間の精神がイド、自我、超自我という三つの心的装置から成っているとする三層構造モデルを示し、イドは充足を求める様々な衝動の固まりであり、自我は道徳や規範を強制するものであるとした。イドが求める充足は、環境に由来する外的な制約や自我に由来する内的な制約によって阻止されることがあり、イドの不満足を調整する機能を超自我が担うとした。

【No. 31】 シカゴ学派に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. シカゴ学派の都市研究には、人間生態学という考え方が使われた。これは、都市を人間によって構成される生態系とみなし、生態学の用語を応用して分析しようとするものである。その上で、多種多様な人々が集まり、不安定な状況にある都市において、社会秩序が生まれる過程を捉えることを研究の焦点にすることが目指された。

イ. E. W. バージェスは、論文「都市の成長」の中で、「同心円地帯理論」を唱えた。この理論は都市の成長過程を示しており、都市は外側から内へと作られていくため、都心に近い内側の住宅は新しく、外側にいくほど古いとした。そして、階級的に地位の高い人ほど、内側の地帯に住む傾向があると論じた。

ウ. W. I. トマスと F. ズナニエツキは、『ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』を著し、その中で、手紙や自伝などの膨大な個人生活記録などを駆使して、米国への移民となったポーランド農民をめぐる社会変動とその適応過程を描出した。この研究は、個人的記録を利用したライフヒストリー研究の先駆けとなった。

エ. 米国の社会学は、1930年代まで、質問紙を用いて大量に収集したデータから統計的に全体像を推測するグラント・セオリーに基づく量的調査研究が主流であった。しかし、このような研究で得られた知見の一般性について確証が得られないという批判が出るようになり、1940年代からは、シカゴ大学でモノグラフと呼ばれるサーベイ調査が整備され、社会学は、リアルな現実を実証的に描き出すことによって人間行動を測定・予測する行動科学として確立されていった。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 32】 日本文化論や文化に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. R. ベネディクトは、文化はその歴史、環境、価値、世界観などの各要素が織物のようにパターン(型)を生み出し、その型が文化の中心的な価値観を象徴すると論じた。そして、文化が個人的・社会的行動に大きな影響を与えることを示しつつ、第二次世界大戦後に日本で実地調査を行い、日本の文化の型は「罪の文化」とであると主張した。
2. 梅棹忠夫は、『風土』を著し、風土という自然環境やその歴史の中で形成される具体的な社会文化や人間存在の在り方に注目した。そして、世界の風土を東アジアの「モンスーン型」、アラビア・アフリカの「砂漠型」、ヨーロッパの「牧場型」に分類し、東アジアのモンスーン型の気候の下では、一致団結して自然に対抗する人間が形成されるとした。
3. 中根千枝は、『タテ社会の人間関係』を著し、日本は集団所属が「資格」によって決まるとして、日本の社会構造をタテの関係として描き出した。そして、「タテ社会」である日本の対極にある「ヨコ社会」の典型が欧米社会であるとし、欧米社会は、集団所属が会社や団体などの「場」によって決まる「単一社会」とした。
4. W. F. オグバーンは、社会変動の速度に注目しながら、文化を家、工場、機械などの「物質文化」と、それ以外の宗教、科学、芸術などの「非物質文化」に区別し、相互依存性をもつ文化の諸部分が同じ割合では変化しないという、変化におけるタイム・ラグの問題を「文化遅滞」仮説として定式化した。
5. カルチュラル・スタディーズとは、正統文化(ハイカルチャー)を分析し、そこに社会における支配関係の影響を見いだして社会の在り方を批判していく研究のことである。その研究では、社会を生産様式である「土台」と、法律、宗教、哲学、芸術といった「上部構造」に分けており、「上部構造」は「土台」に規定されるという史的唯物論が創始された。

【No. 33】 次は、ローレンツ曲線によるジニ係数の求め方に関する記述であるが、ア～エに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

なお、有効数字は小数第3位までとする。

ローレンツ曲線は、ある事象の集中の度合いを示す曲線で、所得や貯蓄の格差などを示すときに有効なグラフである。

ローレンツ曲線は、階級ごとに集計された数値を使用し、階級値の小さい方から順に並べ、横軸に、各階級の度数(人数など)を全体の度数で割った「相対度数」を累積して並べた累積相対度数をとり、縦軸に、階級値と度数を掛け合わせ、全体に占める割合を累積していった値(累積配分比率)をとる。

図1及び図2は、説明のために簡略化したローレンツ曲線である。図1の中央の斜線は均等配分線といい、階級ごとの人数が同じになることなどにより、完全に均等に配分された場合を表し、ローレンツ曲線がこの均等配分線から離れるほど分布の ア が高い。

したがって、均等配分線とローレンツ曲線で囲まれた弓型の部分の面積が求められれば、それを ア の指標とすることができる。ジニ係数(G)とは、均等配分線と縦軸、横軸に取り囲まれた面積(図1のA及びBの面積)のうち、均等配分線とローレンツ曲線に取り囲まれた面積(図1のAの面積)の割合のことをいう。

そして、この弓型の面積は、図2の多角形OPQR(網掛け部分)の面積によって近似的に求められる。つまり、三角形ORSの面積から多角形OPQRSの面積を引いて求めることができる。なお、多角形OPQRSは、いくつかの台形及び三角形に分割できる。

よって、

$$G = \frac{\text{三角形ORSの面積}}{\left(= \frac{1}{2} \right)} \times \left(\frac{\text{網掛け部分の面積}}{\text{三角形ORSの面積}} \right) \\ = \text{網掛け部分の面積} \times 2$$

となる。

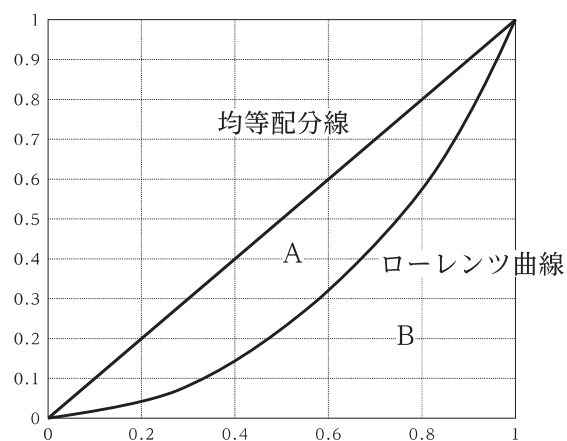


図1

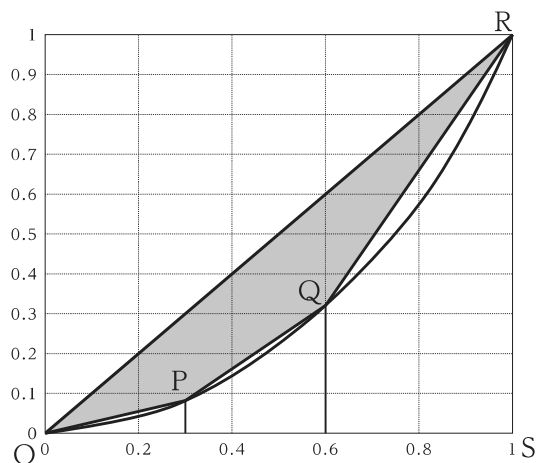


図2

例えば、表に示されるC国について、ジニ係数を求めると、

$$G = \left(\frac{1}{2} - (0.4 \times 0.222 + 0.4 \times (0.222 + 0.667) + 0.2 \times (0.667 + 1)) \times \frac{1}{2} \right) \times 2$$

$$= 1 - (0.4 \times 0.222 + 0.4 \times (0.222 + 0.667) + 0.2 \times (0.667 + 1))$$

$$= 0.222$$

同様に、D国のジニ係数は、 となる。

ところで、 が高まるほど、つまり、少数の者に分配が集中するほど、図2の弓型は三角形ORSに接近する。すなわち、ジニ係数は最小値 、最大値 （正確には、人数がNであるとき $1 - \frac{1}{N}$ ）をとる。

表 収入分布の仮設例

	グループ	人数(人)	人数の累積比率	収入総額(万円)	収入総額の累計(万円)	収入総額の累積比率
C国	1	40	0.40	4,000	4,000	0.222
	2	40	0.80	8,000	12,000	0.667
	3	20	1.00	6,000	18,000	1.000
D国	1	50	0.50	2,000	2,000	0.200
	2	20	0.70	2,000	4,000	0.400
	3	30	1.00	6,000	10,000	1.000

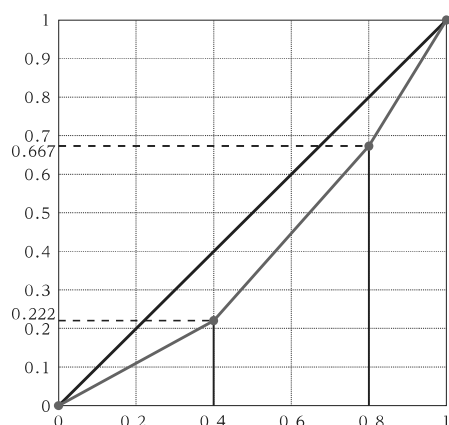


図3 (C国)

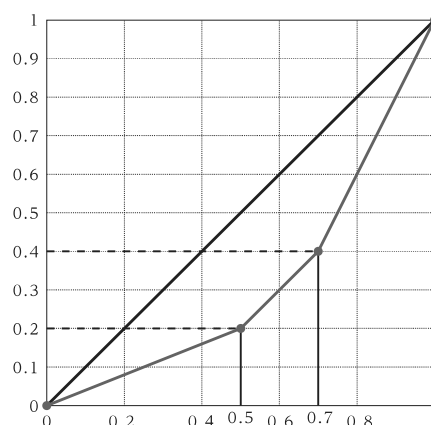


図4 (D国)

	ア	イ	ウ	エ
1. 不均一性		0.425	-1	1
2. 不均一性		0.425	$-\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$
3. 不均一性		0.360	0	1
4. 均一性		0.425	0	1
5. 均一性		0.360	$-\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$

【No. 34】 次は、量的な内容分析に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

人文・社会科学研究において、マス・コミュニケーションを実証的に分析する手法として、量的な内容分析が古くから用いられてきた。量的な内容分析とは、新聞、雑誌、テレビ等の主にマスメディアが発する情報やメッセージの特性を、体系的、客観的に分析する手法を指す。量的な内容分析は米国における 研究に端を発し、現在ではマス・コミュニケーション研究のみならず、社会学、心理学、政治学、文化人類学、文学など多くの分野で用いられている。

B. ベレルソンは、量的な内容分析の必要条件として次の四つを挙げている。第一に、分析対象が明示的な内容のみであること(原則として、隠れた意図や内容が引き起こす可能性のある反応は扱わない)。第二に、分析が客観的であり、分析者が異なっても同じ結果が得られること。第三に、分析が体系的であること(研究者の仮説に都合のよい部分だけを取り出してはいけない)。第四に、分析結果が数量的に把握できること。以上の点から、量的な内容分析は分析結果の を重視したアプローチであることが示唆される。

量的な内容分析を行う際には、分析対象の選定とサンプリングを行った上で、分析単位を決定し、変数とカテゴリーを定義する。例えば、「テレビCMに描かれる外国人像」を分析するとして、外国人が登場するCMを対象に、登場人物という分析単位に関して「性別」のような変数を設定し、「男性」、「女性」及び「その他」といったカテゴリーを用意する。これを踏まえて、変数とカテゴリーを記入したコーディング・シートを作成し、分析作業のマニュアル化を行う。分析の作業量は膨大なので、通常は、複数のコーダー(作業従事者)が分類作業を行い、結果が一致するかどうかを確かめて の確認を行う。

量的な内容分析では伝統的に、人の手によるコーディング作業が行われてきたが、近年は、コンピュータを用いた大規模なデータ解析手法が急速に普及している。テキストマイニングとは、文章やメッセージなど人間が記述したテキストデータに対し、統計学や自然言語処理技術を活用して傾向性や変数同士の関連などの情報を引き出す手法の総称である。学術研究に加えて、アンケートの やコールセンターへの問合せ内容、SNSの投稿といった、大量のテキストデータから顧客の意見や市場ニーズ、潜在的な課題などを把握するために導入が進んでいる。

A	B	C	D
1. プロパガンダ	代表性	合理性	基礎統計量
2. プロパガンダ	代表性	信頼性	自由回答
3. プロパガンダ	再現可能性	信頼性	自由回答
4. アジェンダ・セッティング	代表性	信頼性	基礎統計量
5. アジェンダ・セッティング	再現可能性	合理性	自由回答

【No. 35】 次は、調査票の質問文を作成するに当たって注意すべき事項を挙げたものであるが、ダブルバーレル質問の例と、その説明に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 「『自立できれば結婚しなくてもよい』という考え方に、あなたは賛成ですか、反対ですか。」という質問は、「自立」という言葉が何を指しているのか不明瞭であり、回答者によっては、「自立」を経済的自立や精神的自立などの様々な異なる意味で理解する可能性がある。この状態を避けるためには、質問者自身がそもそも何を測定しようとしているのかをはっきりさせておく必要がある。
2. 「一院制とは、議会を一つの議院のみで構成し、速やかに議論を進めようとする制度ですが、あなたは一院制への移行に賛成しますか。」という質問は、質問文の中に価値判断を含むようなワーディングをしており、回答者に賛成の回答を促す可能性がある。これは、難しい用語に説明・定義を与えてから質問しようとするとき起こりやすいため、留意する必要がある。
3. 「現在の内閣を支持しますか。」という質問の直前に、現内閣の成果に関する質問をしている場合と、失態に関する質問をしている場合とでは、内閣支持に対する回答も変わってくる可能性がある。質問の並び順によっては、直前の質問の内容が後の質問への回答に一定のバイアスを与えることもあるため、並び順には配慮する必要がある。
4. 「この靴の価格や機能に満足していますか。」という質問は、価格に対する満足度と機能に対する満足度を一度に尋ねようとしており、複数の項目が質問文の中に並んでいることから、回答者が回答に当たって困惑したり、分析の際に回答がどちらの項目への反応か分からなくなったりする可能性がある。そのため、項目をそれぞれ分けて質問することや、いずれかを削除することが望ましい。
5. 「ポストコロナリズムについてどう思いますか。」という質問は、一般的ではない専門用語が質問文にそのまま用いられており、多くの人がその意味を正しく理解できない可能性がある。専門用語のほか、外来語や略語などについても、解説を加えるか、使用を極力避けることが望ましい。

Ⅲ部(No. 36～No. 105)

Ⅲ部は**選択問題**です。**科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目(1 科目各 5 題)を選択し、合計 20 題を解答**してください。

この問題集の科目別構成の詳細は、この問題集の裏表紙に掲載されていますので、よく読んでください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

No. 36～No. 40 はⅢ部**科目 1 . 認知心理学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 36】 次の記述の A～D に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

F. I. M. クレイクと E. タルヴィング(1975)の実験の一つでは、アルファベットから成る単語を一語ずつ短時間(200 ミリ秒)提示した。単語を提示する前にあらかじめ、実験参加者にはその単語についての質問をしておいた。質問には三つの種類があった。文字の形態処理を求めるもの(「この単語は大文字で書かれていますか」など)、音韻処理を求めるもの(「この単語は weight という単語と韻を踏みますか」など)、意味処理を求めるもの(「この単語は魚の一種を表しますか」など)であった。全ての単語について提示と質問への回答が終わった後、参加者には、単語の再認テストへの回答が求められた。参加者はテストがあることを事前には知らなかった。このような状況における学習を という。

実験の結果、形態条件よりも音韻条件、音韻条件よりも意味条件で、再認テストの成績が高かった。また、質問への回答に要する時間(反応時間)は、形態条件よりも音韻条件、音韻条件よりも意味条件で、長く掛かった。この結果は、処理水準(levels of processing)の観点から説明された。単語の情報処理過程は、文字の形態の認識から音韻処理、さらに、意味処理といったように何段階かの処理過程を経て進む。処理水準モデルでは、記憶痕跡の強さは情報処理の深さに応じて決まると仮定する。これを当てはめて考えると、形態条件よりも音韻条件、音韻条件よりも意味条件において処理が ために、この順に再認成績が高くなったと説明できる。質問への回答に要する時間がこの順に長くなったことは、この間に が行われたためと解釈される。

当初の理論からは予想外の結果として、質問への回答が「はい」である場合に「いいえ」である場合よりも再認成績が高いことが見いだされた。このことは の概念の導入によって説明された。

A	B	C	D
1. 意図学習	浅い	多段階の分析	ポジティビティバイアス
2. 意図学習	深い	多段階の分析	ポジティビティバイアス
3. 偶発学習	浅い	リハーサル	精緻化
4. 偶発学習	深い	多段階の分析	精緻化
5. 偶発学習	深い	リハーサル	ポジティビティバイアス

【No. 37】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

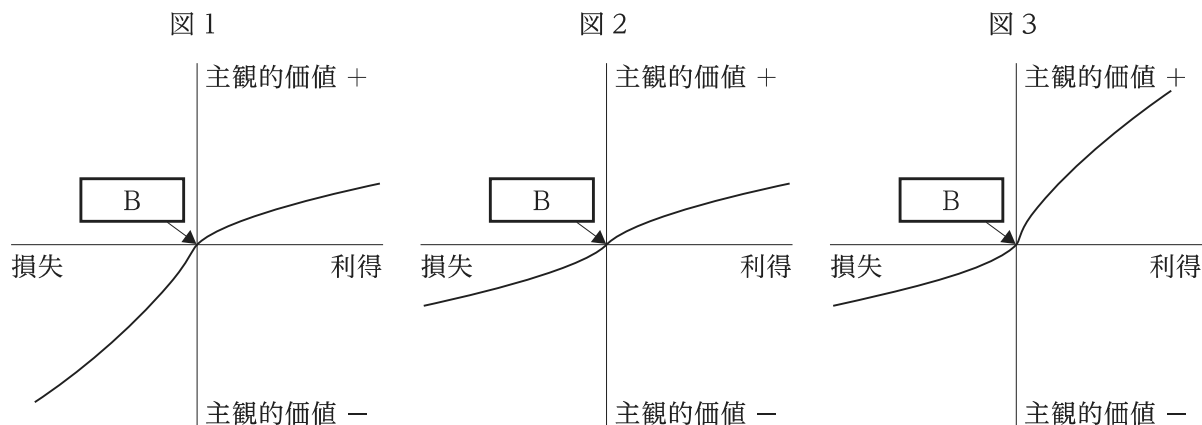
ただし、Aには、図1、2、3のいずれか一つが入る。

プロスペクト理論は、一見、非合理に見える人間の経済行動における規則性を説明する。この理論の主な考えは、A に示す価値関数によって表現される。これによると、人は B に基づいて意思決定の結果が利得なのか損失なのかを評価する。つまり、主観的な価値は、現有の資産の絶対的な水準ではなく、B からの相対的变化によって決まる。したがって、月収100万円の人の給料が80万円に減った場合と、月収20万円の人の給料が30万円に増えた場合では、実際に手にしている給料の絶対額にもかかわらず、後者の方が満足の度合いが大きいと予想される。

また、利得も損失も値が小さいうちは変化に対して敏感であるが、値が大きくなるにつれて変化への感受性は低下する。これを C という。例えば、0円と50万円の差は、100万円と150万円の差よりも主観的に大きく感じる。

最後に、同じ額の損失と利得があった場合、損失がもたらす不満足は、同額の利得がもたらす満足よりも大きい。つまり、プロスペクト理論によれば、人は D の傾向をもつことが導かれる。

Aの候補

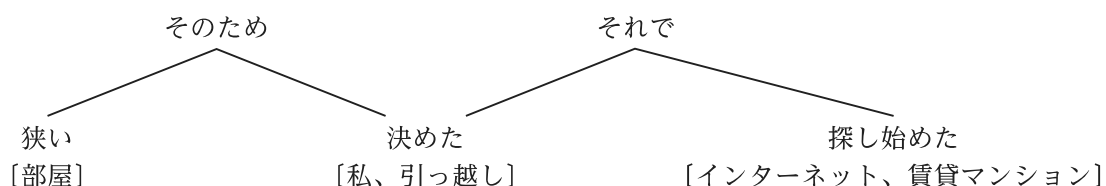


A	B	C	D
1. 図1	参照点	感応度逓減性	損失回避
2. 図1	利得構造	感応度逓減性	コーシャスシフト
3. 図2	利得構造	感覚鈍麻	コーシャスシフト
4. 図3	参照点	感応度逓減性	コーシャスシフト
5. 図3	利得構造	感覚鈍麻	損失回避

【No. 38】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

T. A. ファン・ダイクと W. キンチュ(1983)やキンチュ(1988, 1998)の研究により、文章理解の過程は、三つのレベルの **A** を形成する過程として理論化された。このうち **B** では、語彙情報へのアクセスや統語解析によって、単語や句の意味に関する情報が保存される。次に、読み手は、意味を表す最小単位としての命題をボトムアップ的に抽出し、これらの命題をネットワークとして結び付けた **C** を作る。例えば、「部屋が狭くなったので、私は引っ越しを決めた。それで、インターネットで、賃貸マンションを探し始めた。」という文章からは、「狭い」、「決めた」、「探し始めた」の三つの命題が作られ、それらが「そのため」、「それで」という関係で結び付けられる(図)。読み手は、文章から抽出された命題の **A** に加え、トップダウン処理も行いながら、テキストに関わる読み手の既有知識も組み込んだ **D** を形成する。**D** は、テキストの内容に関連する世界や出来事に関する表象であり、空間、時間、因果関係、主人公、目標といった次元から構成されるとする理論が提案されている。

図 **C** の例



A	B	C	D
1. 記憶表象	表層構造	テキストベース	状況モデル
2. 記憶表象	表面特性	深層構造	身体化認知
3. スキーマ	表層構造	深層構造	状況モデル
4. スキーマ	表層構造	テキストベース	身体化認知
5. スキーマ	表面特性	深層構造	状況モデル

【No. 39】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。
ただし、Cには、㊦又は㊧のいずれかが入る。

著作権の関係のため、掲載できません。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. rapidly	complex	㊦	two-sided figures
2. rapidly	complex	㊧	lines
3. rapidly	simple	㊦	two-sided figures
4. slowly	complex	㊦	lines
5. slowly	simple	㊧	two-sided figures

【No. 40】 認知の特性や個人差に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 場依存型－場独立型の認知スタイルは、認知処理の際に、場の手がかりに頼りやすいか、あるいは場の影響を受けにくいかという個人差を概念化したものである。場依存型－場独立型を測定する方法の一つである棒－枠組み検査は、棒と枠を組み合わせで構成された複雑な図形の中に隠れている単純な図形を探し出す課題であり、場依存型の人は場独立型の人と比べて、図形を素早く見付け出すことができる。
2. 熟慮型－衝動型の認知スタイルは、ある問題に対する正答が不確かな場合に、自分の答えをどの程度慎重に吟味するかを度を示す概念である。熟慮型－衝動型を測定する次元変化カード分類課題は、複数の選択肢の中から見本と同じものを選ぶという課題であり、誤答の際は、正解するまで見本と同じ絵を探し続けることができる。この課題では、最初の回答までの時間が短く、正解するまでの誤答数が多い人は熟慮型と分類される。
3. 心的イメージの特性を調べた心的回転の実験においては、10個の立方体から成る立体図形の線画を左右に二つ同時提示し、一方が他方を回転させたものと同じか、あるいは鏡映像かを判断させる。その結果、 0° から 180° の範囲において図形の回転角度が増えるほど、直線的に反応時間が減少することが示された。心的イメージは個人差が大きく、視覚的なイメージの鮮明性を測定する検査には、COGNISTAT がある。
4. 実行機能を構成する3要素である処理速度、シフティング、更新のうち、処理速度の個人差を測定する課題にストループ課題がある。ストループ課題において、例えば、赤色インクで書かれた「青」という文字のように、色と文字の意味とが食い違う表示がされている場合に、色情報から文字認知への干渉が生じることをストループ効果といい、文字情報から色認知への干渉が生じることを逆ストループ効果という。
5. 視覚のパターン認知では、大域的情報は局所的情報に比べて、優先して処理される傾向がある。これを実験的に検討する Navon 課題では、小さな文字を配置して大きな文字が構成される複合パターンを短時間提示すると、大きな文字は素早く認知されるが、小さな文字の認知には時間が掛かる。特に、大きな文字と異なる小さな文字の認知が大きく遅れるという大域干渉が示された。

No. 41～No. 45 はⅢ部**科目 2 . 臨床心理学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 41】 不安症に関する記述として最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

科目
2

【No. 42】 知能や発達を測定する検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 遠城寺式乳幼児分析的発達診断法は、A. R. ルリアの知見から発展した理論に基づいて開発された発達検査である。検査は、0歳から7歳までの子どもの日常生活の中に現れる行動を、養育者から聴取して実施する。検査の特徴として、1枚の検査用紙に結果を継続的にプロットできるため、発達の推移を継続して評価することができる。
2. 新版K式発達検査は、1951年に開発されたK式発達検査を基礎にして改定が重ねられてきた検査である。子どもが、検査用具をどのように扱うか、教示に対してどのように反応するかなどを観察し、「姿勢・運動」、「認知・適応」、「言語・社会」の三領域から発達を捉える。三つの領域別と全領域の得点を用いて発達年齢や発達指数を明らかにし、子どもの発達状況を評価する。
3. KIDS 乳幼児発達スケールは、保育士・幼稚園教諭の評価によって実施する発達検査である。全体的知的水準を示す「知能指数(IQ)」のほか、「言語理解」、「知覚推理」、「処理速度」という領域別の知能を測定できる。社会生活に影響を及ぼすと考えられる発達障害特性や、各領域が「標準的水準」、「境界水準」、「要配慮水準」のどの水準にあるのかを把握できる。
4. Vineland-II 適応行動尺度は、S. S. スパローが乳幼児期の適応行動を調べるために開発した検査である。対象者をよく知る第三者に、チェックリストの形式で行動特徴について記入してもらう。「コミュニケーション」、「日常生活スキル」、「社会性」、「運動スキル」の四つの適応行動の領域と、「不適応行動」の領域から構成され、社会生活年齢(SA)と社会生活指数(SQ)を算出する。
5. DAM は、K. コッホが児童の知能を測定するために開発した検査である。認知発達とともに描画の発達も決まった順序を示すという考えに基づき、受検者に家・木・人を描かせる。描かれた絵について、発達順序に応じた50の採点項目が設定されており、おおまかな知的能力を測るもので、短時間で簡便に実施できるメリットがある。

【No. 43】 自殺及び自傷行為に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 我が国で発表される自殺者数に関する資料には、総務省による「人口動態統計」と警察庁による「自殺統計」の2種類がある。「人口動態統計」は、調査対象が日本における外国人を含む総人口であり、発見地に基づいて計上されるなどの特徴がある。自殺者数の計上方法の特徴から、「自殺統計」の方が自殺者数の集計値が高くなる傾向がある。
- B. ある人物の自殺が生じた後、複数の自殺が生じることがある。特に、自殺に関する報道がなされた後に複数の自殺が生じる現象は、ウェルテル効果と呼ばれている。インターネットやマスメディアによる自殺報道がもたらした影響について国内に目を向けてみると、2008年に、硫化水素を用いた自殺手段の詳細が広く報道されたことで、当該方法を用いた自殺者数が増加した事例などがある。
- C. 自殺関連行動の予測に関する理論の一つに、T. E. ジョイナーによる「自殺の対人関係理論」がある。この理論では、「身に付いた自殺潜在能力」、「所属感の減弱」、「負担感の知覚」の三つから、自殺関連行動の予測を説明する。「身に付いた自殺潜在能力」は、身体的疼痛への抵抗感の低さや慣れを反映し、「所属感の減弱」と「負担感の知覚」の二つが重なると、自殺願望が生じる。そして、この三つが重なることで自殺関連行動が行動化されると指摘した。
- D. 自傷行為は、本人の自死に対する意図にかかわらず大きな身体損傷を伴う行為を指し、身体損傷の程度は自殺企図と大きく異ならない。そのため、臨床場面では自傷行為と自殺企図の鑑別よりも身体的治療が優先され、仮に両者の鑑別が行われても、その後の治療に重要な意義をもつことは少ない。なお、自傷行為を行っても、本人の不快感情は低減されないことが明らかにされている。

1. A、B
2. A、D
3. B、C
4. B、D
5. C、D

【No. 44】 心理療法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 精神分析の方法論や考え方を取り入れた心理療法は、精神分析的な心理療法と呼ばれる。国際精神分析協会の定めによると、一般に精神分析的な心理療法とは、週4回のセッションを寝椅子(カウチ)を用いて行うものであり、自由連想法を基本とする。面接の過程では抵抗と転移が重要な意味をもち、セラピストはクライアント本人よりも真実を知っているという客観的な立場から、これらの問題を指摘して、クライアントに明示する解釈を行うことが特徴とされている。
2. クライアント中心療法は、C. R. ロジャーズが創始した心理療法であり、セラピストの自己一致(純粋性)、クライアントへの無条件の肯定的配慮及び共感的理解という三つの態度に基づく助言を中心としたアプローチを取る。クライアントの適応には、自己概念が実際の経験から分離して自立していくことによって、実現傾向が発揮されることが重要である。
3. 認知行動療法は、行動的技法と認知的技法を組み合わせることで用いることによってクライアントの症状や問題の改善を目指す、臨床心理学的技法の体系である。クライアントの主訴について、認知、行動、感情、身体反応の各領域と環境との相互作用に関する情報を収集してケースフォーミュレーションを行い、問題が維持されている悪循環の成り立ちを把握した上で、クライアントとセラピストが協働して問題の改善に当たることが重要である。
4. 家族療法は、セラピストとクライアントの二者関係を中心に置いたアプローチとは異なり、家族という密接な関わりのある集団をシステムとして捉える。家族の中で問題を抱えている特定の成員をIPといい、IPの問題によって家族全体の機能不全が生じると考えられており、こうした原因と結果の直線的な因果関係に基づくシステム論の視点から、介入と援助が行われている。
5. 言語表現が十分ではない大人を対象として、遊びを媒介にして実施される心理療法を遊戯療法といい、遊びの中に言葉にはなりにくい感情や葛藤が表現されると考えられている。V. M. アクスラインは、遊戯療法を行うセラピストの基本原則として、クライアントに対して受容的な姿勢を取ることや、クライアントの遊びを促すために、枠組みや制限をなくすことを挙げている。

【No. 45】 ASD(自閉スペクトラム症)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

No. 46～No. 50 はⅢ部**科目 3. 教育環境学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 46】 学校における安全教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 学校における安全に関する 3 領域として、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」が挙げられる。「生活安全」には日常生活における事件・事故の予防として誘拐・傷害対策も含まれ、「交通安全」では、昭和 40 年代前半の交通事故の急増を背景に交通安全指導の推進が図られた。
2. 平成 7 年の地下鉄サリン事件が社会における安全・防犯の意識を高揚させたことを受けて、翌年に学校保健安全法が制定された。同法では、各学校が地方公共団体や関係機関から独立した防犯計画を立て、独自に実施できる体制を整えることを求めている。
3. 平成 20 年に一部改正された社会教育法では、子どもたちの生命を守るために教員や保護者等が作成した計画に子どもが従う姿勢を育てる教育が重要であるとされる。このため、20 年ごとに文部科学省が策定する「学校安全の推進に関する計画」では、大人の視点から横断的・実践的な安全対策を推進することが求められている。
4. 平成 23 年に発生した東日本大震災を契機に、学校カリキュラムにおける防災教育の具体化が求められ、平成 29 年改訂の学習指導要領から、小学校に「防災」が教科として設置された。防災教育は消防署員などの防災の専門家が授業を担当することが必須とされるため、他教科とは関連せずに独立した、特別の教育課程として位置付けられている。
5. 我が国の学校における安全教育に対する意識の高まりを受け、現行学習指導要領では「学校安全計画」の策定と実施が努力目標として位置付けられている。また、災害は起こるものとして、同学習指導要領では、災害を起こさないための予防教育ではなく、災害被害を減らすための減災教育が採用されている。

【No. 47】 「性的マイノリティ」とされる児童生徒の支援に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 文部科学省では、性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するいじめを防止するため、いじめ防止対策推進法に基づく「いじめの防止等のための基本的な方針」を平成 29 年に改定し、「性同一性障害や性的指向・性自認について、教職員への正しい理解の促進や、学校として必要な対応について周知する」ことが追記された。
- B. 『生徒指導提要』* において、「性的マイノリティ」とされる児童生徒の支援は、専門的知見を有する医療機関が主体となって行うこととされている。医療機関に対しては、当事者である児童生徒や保護者の同意が得られない場合でも、学校の判断に基づいて、当事者の個人情報も含めた詳細な情報共有を行うことが推奨されている。
- C. 『生徒指導提要』において、「性的マイノリティ」とされる児童生徒の支援は、当該児童生徒が医療機関を受診して性同一性障害の診断がなされていることが前提とされている。また、「性的マイノリティ」とされる児童生徒が有する違和感は、成長に伴い増していくとされているため、児童生徒の学年が上がるにつれて慎重な支援が必要であるとされている。
- D. 『生徒指導提要』において、「性的マイノリティ」とされる児童生徒に対する支援として、指導要録の記載については学齢簿の記載に基づき行いつつ、卒業後、法に基づく戸籍上の性別の変更等を行った者から卒業証明書等の発行を求められた場合、戸籍を確認した上で、当該者が不利益を被らないよう適切に対応することとされている。

* 『生徒指導提要』(令和 4 年 12 月改訂)

- 1. A
- 2. B
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. C、D

【No. 48】 次は、国連・子どもの権利委員会による「休息、余暇、遊び、レクリエーション活動、文化的生活及び芸術に対する子どもの権利」に関する一般的意見 17 号(2013)の一部を抜粋したものであるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. adults	opportunities	access to	academic
2. adults	opportunities	need for	artistic
3. adults	techniques	need for	academic
4. pupils	opportunities	access to	artistic
5. pupils	techniques	need for	academic

【No. 49】 我が国における外国籍児童生徒に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国における日本語指導が必要な外国籍児童生徒数は、1990年代以降増加傾向にあったが、新型コロナウイルスが流行した2020年以降は減少傾向となっている。外国籍児童生徒の母語としては、スペイン語が最も多く、次いで韓国・朝鮮語、中国語の順に多くっており、外国籍児童生徒が在籍する学校には、当該外国籍児童生徒の母語が堪能な教員を配属するよう義務付けられている。
2. 日本語指導が必要な外国籍児童生徒及び日本国籍児童生徒に対しては、学校において特別な配慮に基づく指導を行うことが可能となっている。その際、在籍学級の教育課程とは異なる特別の教育課程の編成を行い、通常の授業時間中に「取り出し指導」による日本語指導を実施することができる。
3. 文部科学省の調査^{*1}で、令和4年度末時点での日本語指導が必要な外国籍生徒の進路状況等をみると、高等学校等への進学率は約20％であり、高校生等の中退率については、高校生全体が約1％であるのに対して外国籍生徒は約9％であった。また、卒業後の進路については、非正規雇用労働者の割合が最も高く、次いで、大学等への進学及び就職をしていない者の割合が高くなっている。
4. 我が国では、海外で勤務する保護者と共に一定期間暮らした後に帰国した児童生徒を「オールドカマー」、留学生10万人計画が策定された1984年以降に海外から来日した児童生徒を「ニューカマー」と呼んでいる。また、戦後から1983年までに来日していた外国籍児童生徒を「特別永住者」と呼んでいる。
5. 義務教育段階の学齢にある外国籍児童生徒には、就学義務が発生する一方で、授業での言語が主に日本語のみで運用されていることから、不就学となる児童生徒の割合が高い。文部科学省の調査^{*2}によると、各地方公共団体で把握している外国籍児童生徒のうち約30％については、不就学の可能性があると考えられる。

*1 「令和5年度日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(令和6年8月)

*2 「令和5年度外国人の子供の就学状況等調査」(令和6年8月)

【No. 50】 我が国の男女別学・男女共学に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国の近代学校制度は、明治 5 年の学制発布に始まるとされるが、当初の目的は産業振興にあり、「読み・書き・計算」を必要とする工業・商業に携わる家庭の子ども達が対象であった。また、学制発布の際には女子生徒は当該制度の対象ではなく、家庭及び地域での教育継続が望ましいとされた。
2. 明治 12 年に公布され、明治 24 年に改正された教育令では、初等教育機関における男女共学を基本とし、男女が同じ教室で、同じ内容を学ぶことが義務付けられた。この目的は、男女が場所も内容も別々に学ぶことを原則としていた江戸時代までの寺子屋制度から脱却して、全ての子ども達を「国民」として統合する教育を行うことにあった。
3. 明治 19 年に公布され、明治 32 年に改正された中学校令では、男子のみを対象とした教育課程が明記された。一方、女子を対象とした中等教育機関は明治 32 年に高等女学校令が公布され、各道府県に高等女学校が設置されることとなった結果、公立・私立双方を含めた高等女学校の設立が推進された。
4. 明治 19 年に公布された帝国大学令において、高等教育機関への入学を認められたのは男子学生のみであったが、大正 7 年に公布された新大学令において女子学生を正式に入学させることが認められた。しかしながら、大学に女子学生が聴講生・選科生を含めて入学したのは、第二次世界大戦後であった。
5. 昭和 22 年に制定された教育基本法では男女平等・男女共学が原則とされ、女子教育の機運が高まった。私立女子学校では特色ある教育が目指され、昭和 25 年までに女子専門学校・女子高等師範学校を含む約 30 校が私立大学に昇格した。都道府県が管轄する公立の中等教育機関の男女共学化も進み、令和 6 年時点で公立高校の 50 % が共学化している。

No. 51～No. 55 はⅢ部**科目 4. 教育心理学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 51】 教育評価に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 認定評価とは、学年や単元の初めに、その学習に対する準備がどの程度できているかを把握するために行う評価である。一方、単元や1時間の授業における指導の途中で、教師が子どもたちの様子から、授業が成功しているかどうかを点検するために行う評価を、診断的評価と呼ぶ。診断的評価を通じ、教師は授業の中で、自分の授業が狙いどおりに展開しているかを評価し、子どもたちへの支援を行ったり、授業計画や展開を修正したりすることができる。
- B. 子どもが属している集団の成績を基準として、集団内での子どもたちの位置や序列によって評価を行う方法を総括的評価と呼ぶ。総括的評価では、正規分布曲線を基に、その配分率に従って子どもの成績を振り分ける。総括的評価を基にした指導過程として、B. S. ブルームの完全習得学習が知られている。完全習得学習は、全ての子どもに確かな学力を保障することを主張するもので、教師は正規分布の上位層を目標に、子どもに対して様々な働き掛けを行う。
- C. 目標に準拠した評価は、子どもの学習の達成度を教育目標に照らして評価する方法であり、知識・技能のような基礎学力に限定された到達目標を設定し、評価を行う。したがって、目標に準拠した評価では、思考力や主体性を含む高次の学力についての評価は含まれない。目標に準拠した評価を行う際は、何を評価するのかを具体的に示す「評価基準」と、評価対象の子どもがどの程度の段階であるかを判断する根拠を示す「評価規準」の二つが必要となる。
- D. 指導と評価の一体化とは、指導と評価が別物ではなく、表裏一体の関係にあることを意味しており、評価の結果が、指導の改善に生かされることが求められる。この考え方に基づけば、評価は、授業の目標に照らして行われる必要がある。授業の目標は、子どもたちに獲得されなければならない内容と能力を実体的に明示した到達目標と、「自ら解決する態度を養う」といった目指すべき方向を示した方向目標に区別することができる。

1. C
2. D
3. A、B
4. A、D
5. B、C

【No. 52】 アタッチメントに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. アタッチメントは、幼い子どもが、危機的な状況、あるいはそれが予想されるような状況において、特定の他者(アタッチメント対象)との近接を求め、それを維持しようとする後天的な傾向である。アタッチメント自体は、アタッチメント対象とのやり取りの経験に基づく生涯にわたる普遍的な傾向であり、養育環境や親子関係によってアタッチメントの個人差が生じることはない。
2. J. ボウルビィは、アタッチメントの成立過程として四つの段階を想定している。第1段階は、生後2、3か月の時期であり、日常的によく関わってくれる特定の人に対してのみ定位と発信を行うようになる。最後の第4段階は、おおむね3歳以降の時期であり、養育者の行動の意図や計画について推測し、自分の行動を調節できるようになるとともに、養育者などのアタッチメント対象に物理的に近接することで、安心感が得られるようになる。
3. 養育者が、発達早期の乳児であっても豊かな心の世界を有し、感情や意図、欲求や思考をもった存在とみなして、乳児と心を交わしたやり取りを行おうとする傾向は、マインド・マインデッドネスと呼ばれる。例えば、養育者が、乳児の心の状態を言葉にして話したり、乳児の感情や欲求を想像してその行動を説明したりすることが挙げられる。ただし、乳児の行動から読み取る心の状態の内容や程度は、養育者によって異なるという報告がある。
4. アダルト・アタッチメント・インタビューは、M. メインらによって考案された、成人を対象としたアタッチメントの測定法の一つである。非構造化された面接手法により、インタビュー対象者のアタッチメントをめぐる語り方に加え、特に語りの内容を重視して評価が行われる。対象者は、評価結果に基づき、自律型、アタッチメント軽視型、とらわれ型、未解決型のいずれかの類型に割り振られる。
5. 虐待や社会的ネグレクトなどにより、正常なアタッチメントの発達が阻害され、対人交流や情動の障害が持続的に生じている状態を脱抑制型対人交流障害といい、不安や恐怖などのネガティブ情動が生じて、アタッチメント対象に接近しようとしなないことが特徴である。脱抑制型対人交流障害は、M. D. S. エインズワースらによるストレンジ・シチュエーション法による測定結果に基づいて診断される。

【No. 53】 学習指導に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- ア. J. S. ブルーナーが提唱したプロジェクト学習とは、学習すべき課題について、その法則や原理を学習者自らが発見していく過程を体験させるものである。授業は、「学習課題の把握→仮説の練り上げ→仮説の設定→仮説の検証→発展とまとめ」の手順で進められる。このような指導法は、内発的動機づけを高めるほか、限られた時間内で効率的な知識の伝達を可能にする。
- イ. D. P. オーズベルは、新しい知識は、学習者の既存の認知構造に関連付けられながら与えられたときに、効率的に習得されるとし、有意味受容学習を提案した。オーズベルは、関連付けをしやすい工夫の一つとして、先行オーガナイザーを挙げている。例えば、新しい概念と既知の概念の異同を示し、概念間の区別や統合を促す情報を提供することなどがある。
- ウ. L. J. クロンバックは、同じ内容を学習するとしても、学習者に提供する環境と教師の適性によって学習効果が変わるとし、この現象を適性処遇交互作用と名付けた。例えば、R. E. スノウラ(1965)の実験では、学習者を取り巻く教室環境(騒々しい又は静か)と教師の対人積極性の組合せによって成績に違いが出ることが明らかとなっている。
- エ. 個に応じた指導の一つとして、学習内容をどれくらい習得しているかによって学級編成を行う習熟度別学習が挙げられる。この方法を使うと、習熟が進んでいない学習者に対して適切な指導を提供できるという利点がある。ただし、学習者が、下位のクラスに割り当てられたり、クラスを移動したりした際に挫折感や劣等感をもつことがないように、学級編成の仕方に配慮する必要がある。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 54】 動機づけに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. J. W. アトキンソンは、達成行動を行おうとする傾向は、失敗回避動機の強さと、成功の主観的確率の高さ(期待)、成功することの喜びの大きさ(価値)という三つの要素の積によって決まるとした。また、アトキンソンは、この期待と価値の関係について、期待が高いほど価値が大きくなると考え、期待が最も大きいときに、達成行動も生じやすくなるとした。
2. B. F. スキナーは、イヌに逃れることのできない電撃を繰り返し与えた後、壁を飛び越えれば電撃を避けられる状況に置く実験を行った。すると、多くのイヌは、自分からは行動を起こそうとせず、じっとその場にうずくまる反応を示した。この現象を消去という。行動と結果の随伴性を学習したことによる結果であると考えられる。
3. J. B. ロッターは、統制の所在という概念を導入して、動機づけの強さについて説明した。出来事の結果について、運や他人の力などに責任を帰する傾向を外的統制、自己の能力や性格などに責任を帰する傾向を内的統制と呼び、後者の傾向が強い者ほど、過去の失敗や成功から学び、自らの力で事態を收拾しようとすると考えられる。
4. E. L. デシは、報酬が動機づけに影響する理由として、報酬の情動的側面と制御的側面を挙げ、報酬の種類によって動機づけに対する影響が異なることを説明している。情動的側面は内発的動機づけを高め、制御的側面は外発的動機づけを高める。エンハンシング効果は、報酬の制御的側面によって生じると考えられる。
5. C. S. ドゥエックは、学習に対してどのような目標をもっているかが動機づけを決めると主張した。人より良い成績を取ることを目標とするものを学習目標(learning goal)、課題の熟達や技能の習得を目標とするものを遂行目標(performance goal)という。学習目標は、知能は変わらないものという固定的な知能観と結び付いているため、学習目標が高い学習者は、失敗したときに無力感を示す傾向がある。

【No. 55】 言語に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. A. N. チョムスキーは、子どもは、重要な他者との信頼関係の上で、事象に対する共同注意が成立したときに、新しく言葉が獲得されていくと想定し、このような相互作用の形式を言語獲得装置と呼んだ。チョムスキーによると、言語獲得装置の働きを通じて、一つの言語体系を理解するための仕組みである普遍文法を獲得していくものと考えられる。
2. L. S. ヴィゴツキーは、言語は思考の道具としての働きと、情報伝達の道具としての働きの二つがあり、前者を内言、後者を外言と呼んだ。言語は、まず内言として発生し、成長・発達の過程で外言を獲得するとされる。ヴィゴツキーは、3～6歳頃までにみられる独り言のような発話は、内言から外言が発生する過程で生じるものであり、情報伝達の働きをもつとした。
3. 言語音の知覚は、カテゴリー知覚の様式のもとで行われる。日本語圏で育つ子どもは、生後半年時点では、英語圏で育つ子どもと同じくらいに、英語の“l”と“r”の音素を区別することが可能であるが、成人した日本語話者の多くは、この区別が難しい。これは、子どもが自分の母語の音素カテゴリーを構築し、母語の音素に対する弁別力を高めると同時に、自分の母語では区別しない音素を弁別する能力を失っていくためである。
4. 子どもは、1歳前後になると初語を発するようになる。1歳半頃には語彙の獲得スピードが急激に上がる語彙爆発が生じるが、語彙を獲得するスピードは個人差が小さいとされる。初期の語彙発達においては、イヌに結び付けた単語を、イヌだけではなく全ての動物に結び付けるなど、獲得した語彙の本来の意味と実際の運用状況がずれている場合が多々みられる。このような現象は、語彙爆発の時期に入ると増加することが指摘されている。
5. 失語症は言語野の損傷によって起こることが知られており、ブローカ領野を損傷した場合は感覚性失語、ウェルニッケ領野を損傷した場合は運動性失語とそれぞれ呼ばれている。ほとんどの右利きの成人では、大脳皮質の左半球が言語機能の中心を担っている。ウェルニッケ領野を損傷した場合、聴覚的理解は比較的保たれるが、発話が非流暢であり、複雑な文を作ることが困難となる。

No. 56～No. 60 はⅢ部**科目 5. 教育経営学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 56】 地域と学校に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 放課後子供教室は、放課後児童クラブと連携しながら、共働き家庭のおおむね 10 歳未満の児童を対象に安全・安心な居場所を提供する厚生労働省の事業である。教職員及び専任の放課後児童指導員が中心となって、放課後の空き教室等の学校施設を利用して、学習活動や体験活動、スポーツ・文化活動を実施する。
2. 地域学校協働活動は、地域学校協働本部を中心として、幅広い地域住民や企業・NPO 等が参画し、都道府県教育委員会の指示の下、地域全体で小中学校の児童生徒の成長を支える活動である。平成 29 年の学校教育法改正により、学校の業務として位置付けられ、地域を核とした学校づくりを目指した取組である。
3. コミュニティ・スクールは、学校教育法を根拠として平成 16 年に導入され、義務教育段階の公立学校に設置が義務付けられた。運営の中心となる学校運営協議会には地域住民や保護者が参画しており、教育委員会の作成する学校運営の基本方針の承認権限や、教職員の任用に関して意見を述べる権限が付与されている。
4. 学校評議員は、平成 12 年の学校教育法施行規則改正により、学校に必置となった、地域の意見反映や学校運営の説明責任を果たすことを目的とする制度である。設置者の提案を受けて校長から委嘱された学校評議員は、当該学校の教職員や地域住民によって構成されており、校長の求めに応じて学校運営に関して意見を述べることができる。
5. 学校支援地域本部は、地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み(本部)をつくり、様々な学校支援活動を実施する制度である。これは、平成 18 年の教育基本法改正での「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」に関する規定が盛り込まれたことを受けたもので、地域コーディネーターが中心となって学校への支援活動を行う。

【No. 57】 教育職員免許法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 平成 28 年の学校教育法改正により義務教育学校及び中等教育学校が制度化された際は、教育職員免許法においても、新たに義務教育学校教諭免許状及び中等教育学校教諭免許状が規定された。また、令和 8 年度からは、勤務する学校種及び担任する教科に相当する免許状を有していない教員は、30 時間以上の講習を受講・修了しないと一切教壇に立てなくなった。
2. 免許状には、普通免許状、特別免許状及び臨時免許状がある。普通免許状は、大学又は文部科学大臣の指定する指定養成機関において所定の単位を修得した者等に対して都道府県教育委員会により授与されるものであり、授与権者の置かれる都道府県内においてのみ効力が認められる。一方、特別免許状及び臨時免許状は、全ての都道府県において効力が認められている。
3. 教育職員免許法において、20 歳未満の者、拘禁刑以上の刑に処せられた者、政党に加入する者、障害者手帳を所持する者等には、免許状を授与しないこととされている。また、同法において、拘禁刑以上の刑に処せられた場合、政党やその他の団体の参加者となった場合、公立学校の教員であって懲戒免職の処分を受けた場合などに、免許状の効力が失効するとされている。
4. 平成 19 年の教育職員免許法改正により、教員がその時々で必要な資質・能力を保持し、定期的に最新の知識や技能を身に付けるとともに、指導力が不足している教員を排除し、社会の尊厳と信頼を得ることを目指すため、教員免許更新制が導入された。これにより、普通免許状に「授与の日の翌日から起算して 5 年を経過する日の属する年度の末日まで」の有効期限が付されることとなったが、令和 4 年の同法改正により、有効期限が 10 年に延長された。
5. 教育職員免許法において、特別支援学校の教員は、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の免許状のほか、特別支援学校教諭の免許状を有していなければならない旨が規定されている。ただし、同規定にかかわらず、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教諭の免許状を有する者は、当分の間、特別支援学校の相当する部の教諭等となることができるとされている。

【No. 58】 子どもの貧困に対する教育支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 子どもの貧困対策のため、平成 26 年に施行された「こども大綱」に基づいてこども基本法が定められ、貧困の改善進捗を測る数値目標が設定されたが、より一層の貧困対策を図るため、令和 5 年に施行された「子供の貧困対策に関する大綱」に基づいて子どもの貧困対策法* が新たに定められた。
2. 令和 2 年から実施された保育の無償化により、家庭の経済状況にかかわらず、全ての子どもが認定こども園や保育所を無料で利用できるようになった。一方で、幼稚園は文部科学省の管轄となるため、幼児教育の無償化は導入されておらず、家庭の所得に応じて利用料が一部補助される支援となっている。
3. 就学援助制度は、国が定めた基準で要保護者と準要保護者の認定を行っており、要保護者は、住民税非課税世帯の小中学生のことを指し、準要保護者は、国が定めた貧困線の収入を下回る世帯の小中学生のことを指す。援助による支給対象品目は、法律等で定められたものに加えて、都道府県が独自に品目を追加することができる。
4. 現在の高等教育の修学支援新制度は、学ぶ意欲があり、世帯収入の要件を満たした学生に対して、授業料等の減免と給付型奨学金の支給を併せて行う制度である。大学等に進学後、支援を継続的に受けるためには、大学等での出席状況や学修成果に応じた学業要件が課されており、要件を満たさない場合は支援打ち切りとなることもある。
5. 私立小中学校に通う経済的困難を抱える家庭への支援は、就学援助制度の枠組みの対象外となっているため、各都道府県が独自の支援制度を設けている。また、私立高校については、令和 7 年度に導入された私立高等学校等就学支援金によって、家庭の所得にかかわらず、全ての私立高等学校に通う生徒に対して、国が授業料相当の額を交付している。

* 子どもの貧困対策の推進に関する法律

【No. 59】 学校評価に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 学校関係者評価は、評価の中立性を担保するために、当該学校の保護者や地域住民は評価委員から除外され、他校の教職員や教育委員会の職員によって評価委員会が構成されている。当該評価の実施、評価結果の保護者への公表及び設置者に対する報告が義務付けられている。
2. 第三者評価は、学校及びその設置者が実施者となり、当該学校に直接関わりをもたない専門家等の第三者が、教育活動その他の学校運営全般について、専門的・客観的(第三者的)立場から評価を行う。実施者の責任の下で必要であると判断した場合に行うものであり、法令上、実施義務や実施の努力義務は課されていない。
3. 自己評価は、校長や教頭等の管理職が学校及び教職員の評価を実施し、その結果を各教職員にフィードバックする制度である。学校教育の質向上が目的とされているため、自己評価の実施及び学校内部への周知が義務付けられている一方で、評価結果の外部への公表については、学校が決定権限をもっている。
4. 私立学校における学校評価は、建学の精神や独自性を重視する観点から、私立学校法において実施の推奨がなされているものの、法的義務は課されていない。私立学校が学校評価を実施する場合には、同法に基づいて、都道府県が定めた私立学校評価に関する条例に従うことが求められている。
5. 学校評価は、文部科学省が策定したガイドライン*に掲載されている標準評価項目に基づいて実施することが義務付けられており、各学校や設置者による独自の評価項目設定はされていない。評価の客観性を担保するために定量的データを重視しており、評価方法はアンケートに限定されている。

* 「学校評価ガイドライン」(平成 28 年改訂)

【No. 60】 次は、著作権法第 35 条第 1 項の条文であるが、下線部を付した語句の説明として最も妥当なものはどれか。

著作権法(昭和 45 年法律第 48 号)

(学校その他の教育機関における複製等)

第 35 条 学校その他の教育機関(営利を目的として設置されているものを除く。)において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信(自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。)を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

1. 「学校その他の教育機関」とは、組織的、継続的に教育活動を営む非営利の教育機関で、学校教育法第 1 条及びその他の根拠法令に基づいて設置された機関と、これらに準ずるところを指す。具体的には、保育所、予備校や塾、企業の研修施設等は該当するが、各種学校や専修学校、博物館や美術館は該当しない。
2. 「教育を担任する者」とは、教員免許状その他これに準ずる資格を有する専任の教諭、教授等に限定され、非常勤講師はこれに該当しない。「授業を受ける者」とは、名称や年齢を問わず、「教育を担任する者」と実際に対面で学習する者を指す。オンライン授業や録音教材等を利用する場合は、これに該当しない。
3. 「授業」とは、学校その他の教育機関の責任において、その管理下で教育を担任する者が学習者に対して実施する教育活動を指す。講義や実習のほかに、ホームルーム活動やクラブ活動、学校行事等もこれに該当する。入学志願者に対する学校説明会、オープンキャンパスでの模擬授業等はこれに該当しない。
4. 「必要と認められる限度」とは、授業の内容や進め方等とは関係なく、著作物の複製等を行うことの必要性が客観的に説明できる絶対的基準を指す。授業担当者が独自に購入した算数のドリルを担当するクラス以外の児童分を含めて複製することや、社会科の資料集の写真を 10 年分保存して使用できるよう製本化することは、一般に必要と認められる限度を超えないものとされる。
5. 「複製」とは、印刷、写真、複写、録音、録画により、既存の著作物の全部を有形的に再製することを指す。コピー機を使用して別の用紙にコピーすることや、スキャンして PDF に変換することがこれに該当する。黒板への文学作品の板書や絵画の模写、紙粘土による彫刻の模造は、これに該当しない。

No. 61～No. 65 はⅢ部**科目 6. 教育方法学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 61】 カリキュラム・マネジメントに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. カリキュラムの意味するところは多様であり、「意図されたカリキュラム」、「実施されたカリキュラム」、「達成されたカリキュラム」の三つの次元で説明されることがある。また、この三つの関連性を理解するために用いられる概念として、子どもたちの「学習の機会」がある。
2. カリキュラムの開発様式には、教材づくりや相互作用のプロセスを重視する工学的アプローチと、目標を重視したタイラー原理に基づく羅生門的アプローチがあり、教師の要請に基づく「ゴール・フリー評価」や客観的指標による「教育鑑識眼」などを組み合わせて用いられる。
3. カリキュラム・マネジメントは、教育課程における PDCA サイクル、すなわち①Practice(実践)、②Development(発展)、③Critique(批評)、④Action(改善)の四つの工程を中心とする。これらの工程は教育委員会が主として担っており、地域の特徴に則した対応が求められている。
4. カリキュラム・マネジメントは、学校経営を強化する観点から、教育内容の配列を明確に編成することを目指して、平成 2 年告示の学習指導要領に明記された概念である。代表的な内容として、従来は弾力的だった「6・3・3 制」の学校段階を固定化する施策が挙げられる。
5. カリキュラム・マネジメントを進める上では、学校単位の校内研修を廃止し、地方公共団体単位で複数の学校がカリキュラムを統合して行うための地域研修が重視される。特に平成 22 年以降は、社会の変化に左右されない、社会から独立した教育課程の編成が目指されている。

【No. 62】 我が国における情報教育に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 平成 29 年改訂の小学校学習指導要領では、児童の発達の段階を考慮し、総合的な学習の時間内において、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成することとされた。これは、必要な論理的思考力を身に付けることを目的としているため、一般には、児童が実際にプログラミングを体験することなどは想定されていない。
- B. 生成 AI は、教育分野においても様々な利活用が期待されており、文部科学省では、パイロット的な取組として、平成 30 年から、教育活動や校務において生成 AI の活用に取り組む「生成 AI パイロット校」を指定している。一方、生成 AI には、誤った情報を出力してしまう「シンギュラリティ」や、人間の判断や意思決定において自動化されたシステムや技術に過度に依存してしまう「正常化バイアス」のリスクが指摘されている。
- C. 令和 4 年に実施された PISA 調査によると、SNS やデジタルゲームに費やす時間が 3 時間以上の生徒の割合は、我が国は OECD 平均を下回っており、また、生徒の情報モラルについては、我が国は OECD 諸国と比較すると高いことが示された。PISA 調査結果を踏まえ、文部科学省は、GIGA スクール構想の推進と情報教育の更なる充実を図っている。
- D. 平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に基づき、令和 4 年度から、高等学校においては共通必修科目「情報Ⅰ」が新設され、全ての生徒が、プログラミングやネットワーク、データベースの基礎等について学習することとなった。また、大学入学共通テストでは、令和 7 年 1 月から「情報」が出題教科に追加され、高等学校卒業程度認定試験では、令和 8 年度試験から「情報」が試験科目に導入されることとなった。

1. A、B
2. A、C
3. B、C
4. B、D
5. C、D

【No. 63】 「主体的・対話的で深い学び」に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 平成 10 年改訂の学習指導要領において「主体的・対話的で深い学び」という文言が用いられた後、平成 24 年の中央教育審議会答申^{*1}において「主体的・対話的で深い学び」の具体的な内容を示す言葉としてアクティブ・ラーニングという用語が登場した。アクティブ・ラーニングは、自然との対話を重視し、教室内での実験やディベートではなく、自然教室や臨海学校のように直接体験や身体活動を取り入れた学修者の活動的な学修であると同答申において説明されている。
2. 平成 24 年の中央教育審議会答申では、学校が目指す教育として「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた ICT 教育及び科学技術教育の画期的振興が提唱された一方で、これらの面で、施設・設備等における不備や、各学校段階の関連性の欠如等の問題が指摘された。また、科学技術教育の振興については、小中高を通じて、数学(算数)・理科教育等を強化するとともに、中学校では職業に関する基礎教育を、高等学校では産業教育を強化する必要があると示された。
3. 平成 29・30・31 年改訂の学習指導要領では、「どのように学ぶか」ではなく、「何を学ぶか」という観点から、全ての教科等の目標及び内容を、「知識及び技能」、「非認知能力」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の四つの柱で再整理した。この四つの柱が、幼稚園を除く小中高の全体を貫徹するように要請されており、全教科・領域で「主体的・対話的で深い学び」によって、学校外でも通用する汎用性のある能力を育むことを目指している。
4. 平成 29 年改訂の小学校学習指導要領において、各教科等の指導に当たっては、学校図書館を計画的に利用してその機能の活用を図り、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実することや、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実することに配慮するよう示されている。
5. 令和 3 年の中央教育審議会答申^{*2}において「主体的・対話的で深い学び」の実現の柱として、①教育内容の精選、②授業時数の削減、③時間割や日課表の工夫が挙げられた。このうち、授業時数の取扱いについて、小学校・中学校では、学習指導要領において教科等ごと、学年ごとに標準授業時数が定められており、これを踏まえて教育委員会が授業時数を適切に配当し、学校はその授業時数に従うものとされている。

*1 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」(平成 24 年 8 月)

*2 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(令和 3 年 1 月)

【No. 64】 教育方法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ドルトン・プランとは、米国の C. W. ウォッシュバーンによって提唱された教育法である。教師が、生徒の興味・関心に応じて個別の学習計画を立て、生徒は必要に応じて教科別の担当教師に相談しながら自主学習を進めるといった、時間割のない学習体系を基本としている。我が国では、大正時代に小原國芳によって成城小学校に導入された。
2. ウィネットカ・プランとは、米国の H. パークーストによって提唱された教育法である。一斉授業による学びの画一化に対して、学級の枠組みを外し、個別化された学びが試みられた。読み・書き・算数などの共通必修教科を集団学習で、音楽の鑑賞や図画工作、作文などの創造的活動を個別学習で行う形式のカリキュラムが行われた。
3. イエナ・プランとは、ドイツの P. ペーターゼンによって提唱された教育法である。学校共同体思想の下、教師集団と父母集団の協同的自主管理理念に基づいて学校が運営されており、従来の学年別学級編成を廃した、男女共学の異年齢集団である複式学級を基本としている。各学級では、教科による固定的な時間割に代わって週計画が採用された。
4. モリソン・プランとは、米国の H. C. モリソンによって提唱されたものであり、ヘルバルト派の三段階教授法を発展させた教育法である。教科をその特性によって、科学型、思考型、言語型、検証型、自習型の 5 型に分け、そのうちの科学型について、新しい五段階教授法を提示した。科学型についての五段階教授法は、疑問－仮定－計画－遂行－批判である。
5. バズ・セッションとは、塩田芳久が考案した 6・6 討議法を基に、米国の J. D. フィリップスが開発した教育方法である。6 人程度のグループメンバーが別グループに分かれて、それぞれ異なる学習課題を学習した後、元のグループに戻り、各自が学んだ内容を教え合うことで、学習内容の全体を組み立てて理解する学習法である。

【No. 65】 教育におけるスポーツに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 平成 28 年の中央教育審議会答申^{*1}では、体育科・保健体育科について、運動する子供としない子供の二極化や、健康課題を発見して主体的に課題解決に取り組む学習の不足等が指摘された。これらを背景に、平成 29 年の学習指導要領改訂では、体育科・保健体育科の目標として、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成が強調された。
- B. 少子化や学校の働き方改革の進行により、学校単位の部活動運営が困難になったことを背景の一つとして、スポーツ庁及び文化庁は、令和 4 年、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について示した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定・公表し、休日の部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を進めている。
- C. 平成 23 年に施行されたスポーツ基本法は、我が国のスポーツの水準を国際的に高いものにするを目的として、従前のスポーツ振興法を全部改正したものであり、プロスポーツ選手の競技技術の向上のために国及び地方公共団体が果たすべき責務並びにスポーツ団体の努力等を定めたものである。同法において、スポーツは「運動競技及び身体運動であって、心身の健全な発達を図るためにされるもの」と定義されている。
- D. スポーツ庁の調査^{*2}によると、小・中学生の運動時間は平成 29 年度をピークに減少傾向であり、体育授業を除く 1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の割合が、全体の 9 割を超えた。このような現状から、第 4 期教育振興基本計画においては、1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の割合を半減させることが目標として掲げられている。

*1 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成 28 年 12 月)

*2 「令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(令和 6 年 12 月)

1. A、B
2. A、C
3. B、C
4. B、D
5. C、D

No. 66～No. 70 はⅢ部**科目 7. 社会福祉総論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 66】 家族や家庭に関する福祉についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国の明治期において、孤児や棄児等を対象として開設された代表的な施設の一つとして、石井十次による岡山孤児院がある。石井は、孤児無制限収容を発表し、「岡山孤児院十二則」を設けて多様な処遇を実践した。また、不良傾向のある少年に対しては、留岡幸助が家庭学校を設立し、家庭的な生活教育を展開した。
2. 国連児童基金(UNICEF)は、政府と民間部門における家族問題に対する認識を高めることや家族関連問題に対処する努力を促すことなどを目的として、児童権利宣言採択の 20 周年である 1979 年を「国際家族年」と定め、その後、1994 年を「国際児童年」と定めた。国際家族年のテーマは「完全参加と平等」であり、家族を社会生活の核として位置付けた。
3. ジェノグラムは、社会資源関係図とも呼ばれ、クライアントを含めた家族や個人の人間関係や社会関係を簡潔に把握し、社会資源の活用や援助的介入の方法を組み立てるために、円や線を使って図式化して表現する方法である。また、家族システムアプローチとは、工学技術(テクノロジー)的理論を応用して考案された方法であり、システムとしての家族に働きかけを行うものである。
4. 児童福祉法において、特定妊婦とは、「配偶者からの暴力を受けている」と認められる妊婦と定義され、各市町村は、自己申告のあった特定妊婦を登録しておくことで、出産後に速やかに支援を開始できるようにし、また、保護の必要性の高い子供を通所又は宿泊で受け入れ、代替養育を行う特定妊婦等支援臨時特例事業を実施している。
5. 子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)は、乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けたい者と、当該援助を行う都道府県に配置された母子支援員とのマッチングを行い、母子支援員による児童の預かりの援助を行う事業である。

【No. 67】 こども未来戦略(令和5年12月22日閣議決定)とこれに関する事柄や制度についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国において、令和4(2022)年に生まれた子どもの数は約100万人となり、昭和24(1949)年の約270万人から大きく減少した。また、2022年の合計特殊出生率は、1.57であった。少子化・人口減少のスピードも加速しており、このままでは、出生数が2060年近くには50万人を割り込むとともに、総人口も2050年代に1億3,000万人、2060年代に1億人を割り込むと予想される。
2. こども未来戦略に基づく法改正*により、児童手当については、次代を担う全ての子どもの育ちを支える基礎的な経済支援としての位置付けを明確化するため、支給期間を18歳年度末(高校生年代)までから義務教育修了までに短縮した一方で、支給要件のうち所得制限を撤廃するとともに、第3子以降の児童に係る支給額を月額10万円として、給付の重点化を図った。
3. こども未来戦略に基づく法改正により、子ども・子育て支援金制度を令和8年度に創設することとなった。同制度において、児童手当などの支援納付金対象費用に充てるため、医療保険者は、医療保険制度上の給付に係る保険料や介護保険料と併せて、子ども・子育て支援金を徴収することとされた。また、政府は、令和6年度から10年度までの間、支援納付金対象費用の財源について、子ども・子育て支援特例公債を発行することができることとされた。
4. 令和5年度、正常分娩の費用の一部に充てるための金銭給付である出産手当金の額が42万円から80万円に増額され、さらに、こども未来戦略に基づき、令和6年度からは、正常分娩が保険適用され、療養の給付の対象になった。また、都道府県は、妊婦であることの認定を受けた者に対し、妊婦のための支援給付として、その者の胎児の数に1を加えた数に50万円を乗じて得た額を支給することとされた。
5. 子どものための教育・保育給付には、施設型給付と地域型保育給付があり、施設型給付は、認定こども園、幼稚園及び放課後児童クラブを対象とし、地域型保育給付は、保育所、延長保育、病児保育などを対象とする。こども未来戦略に基づく法改正により、令和5年度には、保育所等に通っていない満1歳未満の子どもを対象に、月一定時間までの利用が可能な、いわゆる「こども誰でも通園制度」が施設型給付に位置付けられた。

* 子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律(令和6年法律第47号)

【No. 68】 「令和 5 (2023) 年度 社会保障費用統計の概要」(国立社会保障・人口問題研究所)の内容に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 社会支出(OECD 基準)^{*1}を、「保健」、「高齢」、「家族」の政策分野別にみると、最も大きいのは「保健」の約 59 兆円で、総額の約 42 % を占めた。次いで「高齢」の約 49 兆円(同約 35 %)、「家族」の約 12 兆円(同約 8 %)の順であった。
2. 社会保障給付費(ILO 基準)^{*2}の総額は 135 兆 4,928 億円であり、2011 年度から 12 年連続での増加であった。それを受けて、人口一人当たりの社会保障給付費は 10 万 8,960 円であり、こちらも過去最大の規模となった。
3. 社会保障給付費(ILO 基準)を部門別にみると、「医療」は約 56 兆円で総額の約 42 % を占めており、「年金」は約 46 兆円(同約 34 %)、「福祉その他」は約 34 兆円(同約 25 %)であった。なお、「福祉その他」は、介護保険制度が施行された 2001 年度から 22 年連続での増加となった。
4. 社会保障財源(ILO 基準)^{*3}の総額は約 198 兆円で、その内訳を項目別にみると、「公費負担」が約 80 兆円で収入総額の約 41 % を占めており、次いで「資産収入」の約 58 兆円(同約 29 %)、「社会保険料」の約 54 兆円(同約 27 %)の順であった。
5. 社会保障財源(EU 基準)^{*4}を対 GDP 比でみると、2022 年度時点で、日本はフランス、ドイツ、スウェーデンよりも大きい。また、項目別にみると、日本は、「社会保険料拠出」のうち「事業主拠出」が、これらの 3 か国よりも大きい。

*1 人々の厚生水準が極端に低下した場合に、それを補うために個人や世帯に対して財政支援や給付をする公的あるいは私的供給を範囲とする。ただし、制度による支出のみとし、人々の直接の財やサービスの購入、個人単位の契約や世帯間の助け合いなどの移転は含まない。また、社会保障給付費(ILO 基準)と比べ、施設整備費など直接個人には帰着されない支出まで集計範囲に含んでいる。

*2 ILO の第 18 次及び第 19 次の社会保障費用調査において、「社会保障制度」として定義されている、次の三つの基準を満たすものに係る費用の総計である。

- ①制度の目的が、(1)高齢 (2)遺族 (3)障害 (4)労働災害 (5)保健医療 (6)家族 (7)失業 (8)住宅 (9)生活保護その他、のリスクやニーズのいずれかに対する給付を提供するものであること
- ②制度が法律によって定められ、それによって特定の権利が付与され、あるいは公的、準公的、若しくは独立の機関によって責任が課せられるものであること
- ③制度が法律によって定められた公的、準公的、若しくは独立の機関によって管理されていること。あるいは法的に定められた責務の実行を委任された民間の機関であること

*3 社会保障給付費(ILO 基準)、管理費及び施設整備費等に充てられる財源

*4 社会保障給付、管理費及び施設整備費等に充てられる財源

【No. 69】 児童労働に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 国連児童基金(UNICEF)と国際労働機関(ILO)が 2025 年に発表した児童労働報告書*によると、全世界で約 14 億人の児童が児童労働に従事しており、そのうちの約 5 億人は危険有害労働に従事している。また、家事労働を含まない児童労働に従事している児童の数を男女別にみると、「5～11 歳」、「12～14 歳」及び「15～17 歳」のいずれの年齢層においても、女性の方が多くなっている。
2. UNICEF と ILO が 2025 年に発表した児童労働報告書によると、児童労働が最も多い産業は、鉱業や製造業などの工業部門で、全体の約 70 % を占めている。また、児童労働に従事している児童のうち、「5～14 歳」の児童の 50 % 以上、及び「15～17 歳」の児童の 80 % 以上が、学校教育を受けていない。
3. ILO は 1940 年代に、児童労働に関して「就業が認められるための最低年齢に関する条約」を採択した。この条約において、就業が認められるための最低年齢は義務教育が終了する年齢を下回ってはならず、また、いかなる場合にも 12 歳を下回ってはならない旨が規定されている。
4. 児童の権利に関する条約において、締約国は、児童が危険となったり教育の妨げとなったりするほか、健康若しくは身体的、精神的、道徳的又は社会的な発達に有害となる恐れのある労働への従事から保護される権利を認める旨が規定されている。また、締約国は、この規定の実施を確保するための適当な罰則その他の制裁のほか、労働時間及び労働条件についての適当な規則、並びに雇用が認められる最低年齢を定めることとされている。
5. 我が国では、労働基準法において、使用者は、児童が満 18 歳に達した日以後の最初の 3 月 31 日が終了するまで使用してはならない旨を規定しており、18 歳未満の児童の労働を禁止している。ただし、児童の健康及び福祉に有害でなく、かつ、その労働が軽易なものについては、保護者の許可を受けて、満 6 歳以上の児童をその者の修学時間外に使用することができるとしている。

* 「Child Labour: Global estimates 2024, trends and the road forward」

【No. 70】 次は、ニード論に関する記述を抜粋(一部省略)したものであるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. physiological	safety	environment	aesthetic
2. physiological	safety	love and belonging	self-actualisation
3. physiological	resources	love and belonging	aesthetic
4. material	safety	love and belonging	self-actualisation
5. material	resources	environment	aesthetic

No. 71～No. 75 はⅢ部**科目 8. 社会福祉各論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 71】 児童の意見表明権の保障に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 児童福祉法では、児童の最善の利益を考慮するとともに、児童の意見又は意向を勘案して措置を行うために、意見聴取等措置として、保育所、認定こども園、児童発達支援センターの各施設長は、これらの施設を利用する児童の保護者を対象に、あらかじめ、年齢、発達の状況その他の当該児童の事情に応じ意見聴取その他の措置をとらなければならないとされている。
2. 児童福祉法に規定されている意見表明等支援事業は、保育所、認定こども園、児童発達支援センターにおいて直接児童のケアに当たっている職員が、これらの施設を利用する児童の保護者に対して意見聴取を行うなど、児童の保護者の状況に応じた適切な方法により処遇に係る意見又は意向を把握するとともに、これらの意見又は意向を勘案して、市町村との連絡調整その他の必要な支援を行う事業をいう。
3. 「意見表明等支援員の養成のためのガイドライン」(令和 5 年、こども家庭庁)によると、意見表明等支援員の基本的な役割は、社会福祉専門職としての専門知識を背景に、そのこどもにとって最善の選択を行い、行政機関や児童福祉施設・里親等の関係機関に対し、こども本人に代わって主張するというものである。
4. 意見表明等支援員は、こどもの権利保障のために六つの基本原則等の重要な考え方に基づいて活動することが求められる。その六つの基本原則のうちの一つにレジリエンスがある。レジリエンスとは、組織や社会において、多様な人々がそれぞれの個性や能力を活かし、尊重されながら共に活躍できる状態を指す。
5. 児童の権利に関する条約では、締約国は、自己の意見を形成する能力のある児童が、その児童に影響を及ぼす全ての事項について自由に自己の意見を表明する権利を確保する旨が規定されている。これを受けて、児童は、自己に影響を及ぼす、あらゆる司法上及び行政上の手続において、国内法の手続規則に合致する方法により、直接に又は代理人若しくは適当な団体を通じて聴取される機会を与えられるとされている。

【No. 72】 我が国の精神保健福祉の施策や現状に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 「令和 5 年(2023)患者調査の概況」(厚生労働省)において、退院患者の平均在院日数を傷病分類別にみると、長い順に、「精神及び行動の障害」が約 290 日、「神経系の疾患」が約 93 日となっている。「精神及び行動の障害」の内訳では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が約 570 日であり、全ての傷病分類の中で最長である。
2. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律において、精神障害者の後見人、配偶者、親権を行う者及び扶養義務者は保護義務者となることが規定されている。同法の平成 25 年改正により、保護義務者は、精神障害者に治療を受けさせるとともに、精神障害者が自身を傷つけ又は他人に害を及ぼさないように監督する義務が新たに定められた。
3. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に定められる入院形態には、任意入院、措置入院、緊急措置入院、応急入院の四つがある。このうち措置入院は、入院を必要とする精神障害者で、自傷他害のおそれはないが、任意入院を行う状態にない者が対象であり、入院に当たっては、精神保健指定医の判定及び保護義務者の同意が必要である。
4. 医療観察法*の対象は、精神障害により犯罪をした者であり、刑事事件の裁判手続によってその処遇が決定される。その決定は、入院処遇、通院処遇、不処遇(医療を行わない旨の決定)のいずれかであり、入院処遇及び通院処遇は矯正施設での拘禁刑の執行が終了した後、社会内で行われる。不処遇の場合は保護観察が行われる。
5. 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」は、高齢期の地域包括ケアシステムでは対象となっていなかった精神障害のある高齢者を対象にしている。地域生活定着支援センターが中核機関となって、一貫した相談支援を実施することにより、社会復帰及び地域生活への定着を支援するシステムである。

* 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律

【No. 73】 里親支援センターに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 里親支援センターは、里親支援事業を行うほか、里親及び里親に養育される児童並びに里親になろうとする者について、相談その他の援助を行うことを目的とする児童福祉施設である。小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)に従事する者も援助対象となっている。
2. 里親支援センターの設置及び運営の主体は国であり、必要に応じて児童相談所に附置されなければならないとされている。また、里親支援センターには、事務室、里親等利用者が訪問できる相談室、一時的な起居が可能な一時保護施設のほか、事業を実施するために必要な設備を設ける必要がある。
3. 里親支援センターの長は、養育里親(専門里親を含む。)又は養子縁組里親となることを希望する者からの申請に基づき、当該希望する者について養育里親名簿又は養子縁組里親名簿に登録する。また、里親支援センターは要保護児童を里親に委託する措置を採るものとされている。
4. 里親支援センターには、それぞれ専任の、センターの長、里親制度等普及促進担当者(里親リクルーター)、里親等支援員、里親研修等担当者(里親トレーナー)及び家庭支援専門相談員を置かなければならない。また、これらの職員は里親として登録され、児童を委託された経験を有する必要がある。
5. 里親支援センターは、センターの所在地の都道府県における社会的養育の体制整備のため、代替養育を必要とする子どもの推計、里親に関する業務実施体制の構築に向けた計画の策定、里親及び小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)への委託子ども数の推計を行い、都道府県子ども計画を作成するとされている。

【No. 74】 我が国の公的医療保険における療養費に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 高額療養費とは、入院診療において一部負担金等の額が著しく高額であるときに、その額が一定の自己負担限度額を超える場合に、その差額を償還払いするものである。自己負担限度額は、健康保険、船員保険及び公務員共済等では、所得階層に応じた区分ごとに定額又は限度額の算定式を設定しているのに対し、国民健康保険及び後期高齢者医療制度では、年齢階層に応じた区分ごとに定額を設定している。
2. 入院時食事療養費は、保険医療機関に入院したとき、療養の給付と併せて給付されるものである。入院中の食事の費用は、この入院時食事療養費と入院患者が支払う標準負担額で賄われる。入院時食事療養費の額は、厚生労働大臣が定める基準に従って算出した額から、平均的な家計における食費等を勘案して厚生労働大臣が定める標準負担額を控除した額になっている。
3. 保険外併用療養費は、評価療養、患者申出療養又は選定療養を受けたとき、その療養に要した費用について、支払われるものである。保険外併用療養費の対象となる費用は、評価療養における医薬品の治験に係る診療の場合は、その治験薬の費用であり、選定療養において金属床総義歯を支給された場合は、その金属床総義歯の費用である。その他の診察や入院に係る費用は、保険外併用療養費の対象とはならず、療養の給付の対象となる。
4. 家族療養費は、国民健康保険において、被保険者である世帯主の被扶養者が療養を受けたときに、被保険者に対し、その療養に要した費用について、支給されるものである。その給付の範囲・受給方法・受給期間などは、被保険者に対する療養の給付と同様である。健康保険では、適用事業所に使用される被保険者である世帯主とともに、その被扶養者も被保険者となり、被保険者として療養の給付を受けることができる。
5. 訪問看護療養費は、居宅で療養している者が、主治の医師の指示に基づいて、保険医療機関の看護師等が行う療養上の世話又は必要な診療の補助を受けたときに、支給される。これに対し、主治の医師の指示に基づいて、指定訪問看護事業者(いわゆる訪問看護ステーション)の看護師等から療養上の世話や必要な診療の補助を受ける場合は、療養の給付として訪問看護を受けることになる。

【No. 75】 インクルーシブ教育及びインクルーシブ保育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 障害者の権利に関する条約では、締約国は、教育についての障害者の権利を認めるとしており、その権利の実現に当たっては、障害のある児童に対する特別な教育の場を準備し、そこで、その障害に適した必要な支援を、同様の障害のある児童とともに受けることを保障するとしている。
2. 障害者の権利に関する条約を批准している我が国に対して、国連は 1989 年に障害児教育におけるインクルーシブ教育が行われていないことを指摘し、障害児がインクルーシブ教育を受けられる権利を保障するとともに、特別支援教育の充実を目指す必要があることを勧告している。
3. 文部科学省において、特別支援教育とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた保護者のニーズに基づく取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の障害特性を把握し、その持てる力の範囲内において、適切な指導及び必要な支援を行うものであるとしている。
4. 現行の保育所保育指針では、保育所は、子どもの人権に配慮した保育を行うとともに、障害のある子どもが、加配の保育士との関わりを通して成長できるようにすることを指導計画の中に位置付けることとあり、障害のある子どもの保育が個別に行われることの意義が重視されている。
5. こども家庭庁は障害者差別解消法*などを踏まえ、保育所等における障害のある子どもの受入れにおいて、正当な理由なく、障害を理由として、保育の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯などを制限することなどの不当な差別的取扱いを行わないよう関係機関に求めている。

* 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

No. 76～No. 80 はⅢ部**科目 9. 福祉計画論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 76】 我が国の医療や福祉に関わる施設や事業についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 病院は、20 床以上の病床を有する医療機関である。病院を開設しようとする場合には、市町村長の許可を受けなければならない。また、病院が保険診療を担当するためには、都道府県知事から保険医療機関の指定を受ける必要がある。保険外併用療養費の対象となる先進医療を行うには、厚生労働大臣から特定機能病院の指定を受けなければならない。
2. 介護医療院は、要介護者に対し、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行う施設として、都道府県知事の許可を受けたものをいう。介護老人保健施設は、要介護者であって、主として長期にわたり療養が必要である者に対し、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行う施設として、厚生労働大臣の指定を受けた保険医療機関をいう。
3. 地域医療支援病院は、高度な医療の提供、高度な医療技術の開発、高度な医療に関する研修の実施などの機能をもつとともに、臨床研修を行うために必要な診療科を置いている病院であり、市町村長の承認を得て、地域医療支援病院と称することができるものである。診療に従事しようとする医師は、2 年以上、地域医療支援病院において、臨床研修を受けなければならない。
4. 保育所は、保育を必要とする乳児・幼児を、日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする施設である。幼保連携型認定こども園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての、満 3 歳以上の幼児に対する教育及び保育を必要とする乳児・幼児に対する保育を、一体的に行う施設である。いずれも、国、都道府県及び市町村以外の者が設置する場合には、都道府県知事の認可を得る必要がある。
5. 小規模保育事業は、保育を必要とする乳児又は幼児であって原則として満 3 歳未満のものについて、家庭的保育者の居宅その他の場所において、保育を行う事業のうち、利用定員が 5 人以下のものをいう。家庭的保育事業は、保育を必要とする乳児又は幼児の居宅において、家庭的保育者による保育を行う事業である。いずれも、国、都道府県及び市町村以外の者が事業を行う場合には、都道府県知事の認可を得る必要がある。

【No. 77】 我が国における虐待に関する状況並びに虐待及び虐待の防止に係る法制度についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 高齢者虐待防止法^{*1}が定める高齢者虐待の類型は、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、経済的虐待の四つであり、このうちネグレクトについては、単身世帯の高齢者のセルフ・ネグレクトも含まれると定められている。虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は、速やかに通報する義務があり、通報しない場合の罰則が同法に設けられている。
2. 精神保健福祉法^{*2}において、精神科病院の管理者は、当該精神科病院において医療を受ける精神障害者に対する虐待を防止するため必要な措置を講ずるものとされている。また、同法では、精神科病院において業務従事者による障害者虐待を受けたと思われる精神障害者を発見した者は、速やかに、これを都道府県に通報しなければならないと定めている。
3. 障害者虐待防止法^{*3}において「障害者虐待」とは、養護者による障害者虐待及び使用者による障害者虐待をいう。「令和5年度都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応状況等（調査結果）」（厚生労働省）によると、市区町村等への相談・通報件数は、養護者による障害者虐待が1,512件であり、使用者による障害者虐待は9,972事業所であった。
4. 児童虐待防止法^{*4}において、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを家庭裁判所に通告しなければならないと定められている。通告を受けた家庭裁判所は、家庭裁判所調査官に命じて、児童、保護者又は参考人の取調その他の必要な調査を行わせることができ、必要があると認めるときは、保護者に対し、訓戒、指導その他の適当な措置を採ることができる。
5. 社会福祉士、精神保健福祉士及び医師は、それぞれ社会福祉法、精神保健福祉法及び医療法において、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならないという秘密保持義務が定められている。そのため、高齢者虐待防止法、精神保健福祉法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法における通報・通告義務は免除される。

*1 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

*2 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律

*3 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律

*4 児童虐待の防止等に関する法律

【No. 78】 我が国の雇用保険に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 被保険者は、適用事業所に使用される者であり、適用事業所とは、飲食業など一部の事業を除く、ほぼ全ての種類の事業の事業所であって、常時5人以上の従業員を使用するもの及び国、地方公共団体又は法人の事業所をいう。保険者は、高齢・障害・求職者雇用支援機構である。
2. 保険料は、その全額を事業主が負担する。雇用保険は、本来、事業主が失業した従業員に対して負うべき失業への補償責任を保険化したものであることによる。また、事業の種類に応じた失業発生の確率を保険料率に反映させるため、保険料率は事業の種類ごとに細分化されている。
3. 求職者給付に属する基本手当は、一般被保険者が失業した場合に給付される。ここにいう「失業」とは、離職し、労働の意思又は能力を喪失したため、職業に就くことができない状態にあることをいう。また、基本手当を受給するには、労働基準監督署に出頭し、失業の認定を受ける必要がある。
4. 基本手当の所定給付日数は、離職の日における年齢、被保険者であった期間、離職理由等に応じて設定されており、被保険者であった期間が短いほど、所定給付日数が長くなるように設定されている。また、就職が困難な者については、倒産等により離職した者や解雇等により離職した者よりも、所定給付日数が短く設定されている。
5. 自己都合により離職した者に対しては、基本手当の受給に当たって、待機期間満了の翌日から原則として1か月間の給付制限期間があるが、労働者が安心して再就職活動を行えるように、離職期間中や離職日前1年以内に、自ら雇用の安定及び就職の促進に資する教育訓練を行った場合には、給付制限は解除される。

【No. 79】 我が国の刑事司法と福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ある特定の物質や行動(ギャンブルやネットゲーム等)にのめり込み、もともと習慣的であった行動が自分の意思でうまくコントロールできなくなる状態をアサーションという。刑事施設においては、アルコール依存症者を対象として、アルコール依存症当事者による自助グループであるナルコティクス アノニマス(NA)の協力も得ながら、特別改善指導を実施している。
2. 令和3年に施行されたストーカー規制法*の改正により、住居や勤務先等の付近をみだりにうろつく行為や、拒まれたにもかかわらず連続して電子メールを送信する行為が新たに規制対象とされた一方で、SNSのメッセージ送信等やブログ等の個人のページにコメント等を送ることは規制対象とならなかった。また、ストーカー行為罪は、被害者からの告訴が必要な親告罪となった。
3. 犯罪対策として再犯防止施策が進められているところ、高齢又は障害のある受刑者は、出所後に自立した生活を行うのに困難がある場合が多く、適切な支援体制が確保されないまま出所する状況があったため、出所後速やかに適切な支援を受けられるよう、刑事施設の出所者には、就労等の一定の目標が達成されるまでの間は、原則として保護観察を停止した上で、国から年間最大72万円の奨励金が支給されるなど、円滑な社会復帰のためのいわゆる入口支援が行われている。
4. 犯罪被害者等給付金には、遺族に対して支給される遺族給付金と、犯罪行為により重大な負傷又は疾病を受けた者に対して支給される重傷病給付金、身体に障害が残った者に対して支給される障害給付金の3種類がある。犯罪被害者等は収入が途絶えたり、様々な出費を強いられたりするなど生活上の負担が生じる一方、加害者からの損害賠償が十分に受けられていない状況にあるため、令和6年の制度改正により、遺族給付基礎額、休業加算基礎額及び障害給付基礎額の最低額が引き上げられた。
5. 令和5年から全国の保護観察所や刑事施設等で運用が開始された被害者参加制度は、制度利用を希望した犯罪被害者等が、被害に関する心情、置かれている状況、加害者の生活や行動に関する意見を加害者に直接伝達する制度である。あくまで加害者に心情等を伝達する制度であり、また、保安上のリスクもあることから、加害者は、伝達された心情等に反応を示してはいけないこととなっている。

* ストーカー行為等の規制等に関する法律

【No. 80】 我が国における福祉事務所に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 都道府県が設置する福祉事務所は、老人福祉法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法に定める援護、育成又は更生の措置に関する事務のうち、都道府県が処理することとされているものをつかさどる旨が地方自治法に規定されている。
2. 福祉事務所の所員の定数は社会福祉法で定められている。そのうち、現業を行う所員の数については、市の設置する福祉事務所にあつては、生活保護法の適用を受ける被保護世帯数が160以下であるときは2であり、被保護世帯数が65を増すごとに、これに1を加えた数になると規定されている。
3. 福祉事務所には、所長のほか、指導監督を行う所員、現業を行う所員及び事務を行う所員を置かなければならないことに加え、これらの所員はいずれも、社会福祉士でなければならない。ただし、所長が、その職務の遂行に支障がない場合において、自ら事務を行うときは、事務を行う所員は置かなくてもよい。
4. 都道府県及び市は、条例で、福祉事務所を設置しなければならないことになっているが、町村には設置義務はない。なお、町村が福祉事務所を設置、又は廃止するには、あらかじめ、都道府県知事に協議しなければならない。
5. 町村が福祉事務所を設置する場合、社会福祉法の規定により一部事務組合又は広域連合を設けることが義務付けられている。この場合には、当該一部事務組合又は広域連合内の町村の区域が、当該事務所の所管区域となる。

No. 81～No. 85 はⅢ部**科目 10. 地域福祉論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 81】 我が国の高齢者福祉における多職種連携に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、地域における関係機関等が連携して切れ目のない在宅医療・介護の提供体制を構築するため、在宅医療・介護連携推進事業が市町村で実施されている。
2. 要介護高齢者に対する支援を多機関多職種のチームで行うため、介護支援専門員は、サービス担当者会議を少なくとも毎月 1 回、対面で開催しなければならない。その際、介護サービス事業者からの利用者に係る情報を、利用者の同意がなくても主治の医師等に提供できる。
3. 市町村圏域の地域包括支援ネットワークを構築するため、地域包括支援センターを各市町村に 1 か所設置することが介護保険法で規定されている。地域包括支援センター運営協議会は、介護サービス事業者及び職能団体で構成され、会長は市町村長が指名する。
4. 居宅介護支援事業者は、要介護認定を受けた利用者の居宅サービス計画作成を行うが、その計画作成を訪問介護事業所に委託することができる。地域包括支援センターは、要支援認定を受けた利用者の介護予防サービス計画作成を行うが、この計画作成を外部に委託することはできない。
5. 高齢者虐待の防止や早期発見、虐待を受けた高齢者に対する適切な支援等を行うために、介護支援専門員は、民生委員や人権擁護委員等を含めた高齢者虐待防止ネットワークを構築する。また、虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は、速やかに、これを法務局の人権相談窓口へ通報する義務がある。

【No. 82】 我が国の障害者福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 外出することが著しく困難な重度の障害等の状態にある障害児の居宅において、日常生活における基本的な動作や生活能力の向上のために必要な支援等を行う「放課後等デイサービス」の利用者数は、同サービスが平成 30 年に開始されて以降、増加傾向にある。一方で、放課後児童クラブにおける障害児の受入数は、平成 26 年から令和 5 年までの 10 年連続で減少している。
2. 障害者総合支援法^{*1}における相談支援事業とは、知的障害や精神障害等により判断能力が十分でない者を対象とした支援で、障害者等の意思にかかわらず、本人に代わって、適切な福祉サービスの利用契約を結んだり、財産管理等を行うサービスである。また、計画相談支援は、入所施設や病院等からの地域移行のために住居の確保等に関する相談を行う。
3. 難病法^{*2}における難病とは、医学の進歩を背景として治療法が確立しているものの、希少な疾病のために長期の入院を必要とするものである。平成 25 年から、障害者総合支援法に定める障害児・者の対象に難病等が加わり、令和 7 年 4 月現在、130 疾病が対象となっている。同法における障害支援区分の認定や支給決定には、身体障害者手帳又は指定難病の登録者証が必要である。
4. 障害者総合支援法に基づく就労に関する障害福祉サービスには、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、就労選択支援がある。そのうち、令和 7 年 10 月から開始された就労選択支援は、障害者本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援するものである。
5. 農業が福祉の課題解決に取り組むことを目的とした農福連携が全国各地で行われている。平成 31 年に制定された日本農林規格である「ノウフク JAS」とは、障害者の食生活を支えるために開発・生産された食品の農林規格であり、この規格に適合した食品は、障害種別に工夫された色や大きさに特徴がある。

*1 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

*2 難病の患者に対する医療等に関する法律

【No. 83】 民生委員制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 民生委員は、社会奉仕の精神をもって、住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行うことを通じて社会福祉の増進に努めることとされており、その任期は5年である。また、非常勤の公務員であることから、給与が支給される。
2. 民生委員の委嘱は、市町村長からの推薦によって、都道府県知事が行う。なお、民生委員の推薦に当たり、市町村長は、都道府県に設置された地方社会福祉審議会の意見も考慮しながら、市町村に設置された民生委員推薦会が推薦した者について推薦を行う。
3. 民生委員の職務には、住民の生活状態の把握や、要援助者の相談対応及び助言、要援助者への情報提供、社会福祉事業の経営者や社会福祉活動の従事者への指導監督のほか、臨時職員として福祉事務所その他の関係行政機関の業務を担当することが含まれる。
4. 民生委員は、その職務に関して、市町村長の指揮監督を受ける。また、市町村長は、民生委員に対し、援助を必要とする者に関する資料の作成を依頼するほか、民生委員の職務に関して必要な指導及び懲戒を行うことができる。
5. 民生委員の定数は、厚生労働大臣の定める基準を参酌して、市町村の区域ごとに都道府県の条例で定める。なお、条例を制定する場合は、都道府県知事は、あらかじめ当該の区域を管轄する市町村長の意見を聴くこととなっている。

【No. 84】 令和３年に施行された改正社会福祉法における重層的支援体制整備事業に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 市町村は、地域生活課題の解決に資する包括的な支援体制を整備するために、本事業を実施することが義務付けられた。あわせて、地域の特性に応じた取組の推進に向けて、本事業を地域福祉計画の必須事業に位置付けることが規定された。
2. 都道府県は、市町村の取組を支援するために、重層的支援体制整備事業実施計画を策定することが義務付けられた。さらに、都道府県内を区域として、社会福祉法人間の業務連携を進める社会福祉連携推進法人制度が創設された。
3. 本事業における重層的支援会議とは、相談者の同意が得られない場合に、支援関係機関で情報を共有し、支援計画を検討する会議である。個人情報保護の観点から、会議は支援関係機関の職員で構成し、地域住民は含めない。
4. 本事業における多機関協働事業とは、複合的な課題を抱える地域住民及びその世帯に対する支援体制を整備する事業である。この事業では、地域生活課題を解決するために、支援関係機関の有機的な連携の下、その解決に資する支援を一体的かつ計画的に行う体制を整備する。
5. 本事業における参加支援事業とは、社会生活を円滑に営む上での困難を有する者が、世代や属性を超えて社会参加できる居場所を整備する事業である。具体的には、地域のプラットフォームの形成により、既存の居場所活動の活性化や新たな居場所づくりに対する支援を行う。

【No. 85】 我が国の災害時における経済的支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 被災者生活再建支援金とは、自然災害により 500 世帯以上の住宅全壊被害が発生した市町村において、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対して支給するものである。実施主体は市町村であるが、被災市町村の業務負担を軽減するため、都道府県が申請窓口を担うことになっている。
2. 災害弔慰金とは、自然災害により死亡した者の死亡当時における五親等内の親族に支給するものであり、別居や生計を異にしていた場合であっても支給の対象となる。死亡者一人当たりの支給額は 100 万円が上限であり、実施主体は市町村である。
3. 災害障害見舞金とは、自然災害により 5 世帯以上の住居が滅失した市町村において、身体障害者手帳を有する者に支給するものである。身体障害者障害程度等級が 1 級の場合は 250 万円、2 級の場合は 125 万円を支給し、実施主体は都道府県である。
4. 災害援護資金とは、自然災害により負傷又は住居、家財に被害を受けた世帯の世帯主に対して、状況に応じて 350 万円を上限に貸付けを行うものである。貸付利率は年 3 % 以内だが据置期間中は無利子であり、申請に当たって所得制限は設けられていない。実施主体は都道府県である。
5. 生活福祉資金とは、金融機関等からの借入が困難な低所得世帯、障害者や高齢者のいる世帯に対して、経済的な自立と生活の安定を図るために必要な経費等の貸付けを行うものである。実施主体は都道府県社会福祉協議会であり、大規模災害時には、対象世帯の拡大等の特例措置が実施される場合もある。

No. 86～No. 90 はⅢ部**科目 11. 社会学(理論)**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 86】 P. ブルデューの学説に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 人々は社会生活の中で様々な経験を積み重ねる。これら過去の社会的経験は反復を通じて身体へと刻み込まれ、ある種の性向を形成する。このようにして身体化された性向は「ハビトゥス」と呼ばれ、知覚・思考・評価・感覚・行為を持続的に方向付ける図式となる。ハビトゥスは、階級と性向の対応関係を背景にして、個人の社会階級的な位置に応じて特徴付けられている。
- B. ハビトゥスによって産出される実践は、歴史的過程を経て分化し、相対的に自律した「オートポイエーシス」と呼ばれる空間で展開される。オートポイエーシスは、諸位置の構造化された空間であり、特殊な規則と賭け金に基づく正統性の独占をめぐる闘争が行われるゲームの空間である。ハビトゥスはこの空間との結び付きを通じて公共性へと変換される。
- C. 資本とは、収益を賭けた競合的行為が行われる場において、行為主体が投じることのできる元手を指す。資本には、貨幣や不動産のような経済資本、人間関係や集団メンバーシップのような文化資本、さらに、世代間で相続される人的資本も存在する。人的資本には、書籍・楽器等の客体化された形態、学歴・資格等の制度化された形態、知識・能力等の身体化された形態がある。
- D. 学校で適用される価値体系は、支配階級において養成される文化的性向と高い親和性を有しており、特定の階級文化を正統なものとして公認し、その意味体系を人々に押し付ける。だが、「相対的剥奪」の効果により、その根底にある力関係は巧妙に隠蔽される。教師と学生がともに学校の価値を信じ、正統性の序列を承認することで、能力評価は中立性の外観をまとう。このように、社会秩序の恣意性を自然なものとして認めさせる働きが「世俗化」である。

1. A
2. D
3. A、B
4. B、C
5. C、D

【No. 87】 イデオロギーや知識、科学についての学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. R. K. マートンは、論文「イデオロギーと国家のイデオロギー装置」において、特定の支配体制が自らを存続させるための仕組みとして、「抑圧装置」と「イデオロギー装置」の二つを挙げた。前者は学校、教会、家族など観念の刷り込みを行う国家機関であり、後者は軍隊や警察など物理的強制を行う国家機関である。
2. K. マンハイムは、全て知識はその担い手が社会の中で占めている位置によって制約されていると考え、これを「知識の存在(被)拘束性」と呼んだ。相手の知識をイデオロギーとして批判するだけでなく、自分の知識も社会的条件によって規定されたものだと思ふべきだとしつつも、相対主義ではなく、認識の部分性を動的に相互関連的に総合化する可能性を認めていく相関主義を主張した。
3. A. シュッツは、科学が健全に発達するには、①共有主義、②普遍主義、③没利害性、④懐疑主義の四つの規範が科学者たちに共有されている必要があると論じた。そして、科学が近世西欧で確立したのは、キリスト教のカトリシズムの価値意識が、これらの四つの規範に合致していたためであると結論付けた。
4. Z. バウマンは、『イデオロギーとしての技術と科学』において、一般に認められた科学的業績で、一時期の間、専門家に対して問い方や答え方のモデルを与えるもののことを「パラダイム」と呼び、コミュニケーション的行為によって新しいパラダイムが出現することを「科学革命(パラダイム・シフト)」と名付けた。
5. J. K. ガルブレイスは、『イデオロギーの終焉』において、自由主義と社会主義のイデオロギー対立は、両陣営で経済成長と物質的豊かさが実現して階級格差が縮小したために、従来の意味を失ったとし、イデオロギー対立がなくなり、経済的豊かさを達成した社会の在り方について「再帰的近代」と表現した。

【No. 88】 近現代の産業や労働に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 20 世紀前半、工業化が進展する中でフォーディズム的生産方式が生まれた。それ以前は、F. W. テイラーの科学的管理法により、機械化した生産設備を用いた労働に労働者を従事させる合理的システムが採用されていたが、フォーディズム的生産方式はそれに代わって、G. E. メイヨーらのホーソン実験の結果から導かれた資源動員論に基づき、大量生産体制を確立した。
2. 20 世紀半ばから、多品種の製品を柔軟かつ効率的に生み出す生産方式であるポストフォーディズム的生産方式が拡大した。これは、様々なニーズに合った多品種少量の商品が求められる社会になり発展した生産体制である。J. ボードリヤールは、このような消費社会においてモノのもつ象徴的意味が消費場面における商品的価値に影響していることを主張した。
3. 20 世紀後半の日本的雇用慣行の特徴として、終身雇用(長期的雇用慣行)、年功序列(年功賃金制)、産業別労働組合が挙げられる。R. P. ドーアは、1960 年代に英国と日本の工場の比較調査を行い、英国の工場労働者は企業がアイデンティティの帰属先となっており組織志向的である一方、日本の工場労働者は技能や階級などへの帰属意識が強く市場主義的であると指摘した。
4. 就職氷河期世代とは、リーマンショックに端を発した世界金融危機の後の雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代を指す。この世代は非正規労働者の割合が高いところ、非正規労働者は正規労働者と同じ労働をしても同一の賃金を得ることができず、ワーキングプアの問題を抱えている。このような非正規労働者の働き方のことを、不払い労働(シャドウ・ワーク)という。
5. 消費社会的・ポストフォーディズム的資本主義が拡大していく中で、労働はより孤立した個人的な営みへと変化し、もともと社会で不利な待遇を受けやすかった集団を中心に貧困の問題が生じる一方で、フリーランス的な方法で富を稼ぎ出す専門家的な人々が現れた。A. ギデンズは、こうした二極化が固定化した現代を、ソリッド・モダニティ(固体的近代)と呼んだ。

【No. 89】 都市・農村社会学の諸学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. G. ジンメルは、大都市特有の人々の冷淡さや悟性に基づく態度のほか、貨幣経済や時計に従った生活に由来する没主観性は、かえって個人に対して自由を与えるものだと論じた。すなわち、小都市では人々に強い紐帯があるが、大都市では弱い紐帯になる。ジンメルは、この対照的な社会化の形式をそれぞれ「第一次接触」、「第二次接触」と呼んだ。
2. 鈴木栄太郎は、米国の農村社会学とは対照的に社会関係の累積に注目する視点から、強い統合の成立した日本のムラの在り様を「自然村」と呼んだ。それは、農村住民の社会的諸関係が織り成す日常生活の場であり、同時に村の精神を共有する社会的統一体であったが、大正デモクラシーの影響により解体したと主張した。
3. L. ワースによるアーバニズム論の基本的主張の一つは、都市化の程度が高まれば社会解体がより明確に現れるというものである。これに対して C. S. フィッシャーは、接触可能な人口量が多い都市では、好みやスタイルを共有するネットワークがより多く形成され、それを基盤に多様な下位文化が生み出されると論じた。
4. 近代都市は工業生産に大きな基礎を置いてきたので、工場や物流施設、そこで働く労働者向け住宅群は都市空間の広大な部分を占めてきた。しかし、再都市化や新しい交通体系の普及により工業空間は次第に役割を終え、物理的荒廃や社会環境悪化等の問題を抱えるようになった。これらインナーシティ問題は第二次世界大戦前に我が国でも社会問題化し、当時から社会学における理論的課題の一つとなった。
5. 資本と労働のトランスナショナルな移動ネットワークが形成され、その結節点が国家の首都として巨大化するとき、「世界都市」と呼ばれ、理論化の対象となる。21 世紀にかけて諸世界都市ではメガ・プロジェクトや都市インフラの建設は既に完了したので、「クリエイティブ・シティ」など人口政策が都市間競争の焦点となってきた。

【No. 90】 T. パーソنزの理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 商業化などによって家族機能の外部化が進んだ結果、現代の家族の機能は、子供の社会化と成人のパーソナリティの安定化という二つに縮減されたとした。また、家族内の役割として、父親は家族の物質的財貨を獲得するという道具的役割が付与されており、母親は家事・子育てに従事する表出的役割が付与され、両者は分化の傾向があるとした。
2. 社会は諸個人の行為の単純な寄せ集めであり、また、諸個人は合理性の規範に基づいて最も合理的な手段を選択して自己の目的の達成を追求するものであるとした。そして、このような功利主義的な社会において社会秩序が保たれているのは、強い権力と社会契約が「万人の万人に対する闘争」を解決しているからであると結論付けた。
3. 人類学者 F. ボアズの構造概念を受容して、社会システムの活動を、構造と機能という二つの概念によって捉えた。そのうち、社会システムの機能として、A 適応、G 目標達成、I 統合、L 潜在的パターンの維持の四つを挙げ、社会システムが存続するためは、四つのうちいずれかが一つが機能し、当該機能を担うサブシステム内部で「複雑性の縮減」が行われることが必要だと述べた。
4. 社会的行為を、それを引き起こす動機と結び付けて考察することの重要性を強調し、「目的合理的行為」、「価値合理的行為」、「感情的行為」、「伝統的行為」の4種類に分類した。そして、現代の人間は合理的な手段を用いて自己の利益の最大化を追求し、目的合理的に行為する「ホモ・エコノミクス(経済人)」であると主張した。
5. 患者・医師関係を「合意」に基づく二者間の役割関係と捉え、患者は病人の役割を演じつつも、専門家である医師に治療を委ねるのではなく、対話や交渉を通じて自分自身の価値観に基づいて意思決定を行うべきであると主張した。その上で、近代医療の事例として、患者と医師がそれぞれの役割を演じることに徹して対話を放棄する「役割距離」を指摘した。

No. 91～No. 95 はⅢ部**科目 12. 社会学(各論)**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 91】 逸脱に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. E. H. サザランドは、下層の人々だけが犯罪に関与するのではなく、上層の人々の犯罪も視野に入れなければならないとして、名望ある社会的地位の高い人物が職業上犯す犯罪というホワイトカラー犯罪の概念を提起した。また、企業・組織体犯罪の原因について、身近な上司・同僚などとの直接的な相互作用を通じて、違法な行為も職務上必要なこととする定義を受け入れるという分化的接触論を提起した。
2. C. W. ミルズは 20 世紀中頃の米国社会を分析して、逸脱行動とは、アメリカン・ドリームの実現という生き方に関連した文化的目標や制度的手段に背く行動であるとした。そして、米国社会は金銭的な成功という文化的目標が強調されつつ、その目標を実現するための手段を制限する制度的規範も強まることにより、社会的に許容されていない手段に訴える者が逸脱行動を選択するとした。
3. A. K. コーエンは、本来は伝統的世界に属し、伝統的な価値観・規範をもつ非行少年は、罪悪感なく非行ができるような自己弁明の態勢と、刑法に代表される規範束縛の弱体化を用いて、伝統的世界から離脱して漂流するという漂流理論を提唱した。そして、同理論について「われわれは、それを犯罪だから非難するのではなくて、われわれがそれを非難するから犯罪なのである」と表現した。
4. 闘争理論では、逸脱について、子供が社会経済的に不利な社会環境に置かれていたり、性格や気質上で問題を抱えていたりすると、家庭や学校での社会的コントロールが不十分なものとなることから逸脱の過程に陥りやすく、そうした環境で育った子供は非行仲間への愛着を強めて非行へ向かうようになる、と説明している。
5. 割れ窓理論では、逸脱はそれを行う者には何らかの意義を有するものであるが、功利的な損得勘定だけで行われるものではないとしている。また、逸脱はその行為者にとっては、社会的慣習により拘束され、大人から抑圧されている自己の自律性を回復する手段であるとし、自我や行為を社会的に抑圧された人々にとって、逸脱はその状況からの解放を意味するとしている。

【No. 92】 階級・階層に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. K. マルクスとF. エンゲルスは、『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』において「これまですべての社会の歴史は階級闘争の歴史である」と述べた。具体的には領主と農奴の関係など所有関係に基づく闘争であり、歴史法則としてはブルジョア革命によって闘争が終焉するとした。
2. G. タルドの理論によれば、労働者が自らの歴史的役割を客観的に認識したとき、はじめて即自存在となり、真の階級という虚偽意識を克服することができる。これにより、私的所有のない平等社会への道が開けると論じられている。
3. T. B. ヴェブレンは、有閑階級が自らの経済力を誇示するために非生産的消費をすることを「シミュラクル」と命名した。ここでいう非生産的消費とは、名声の獲得のために効果的な、高価なカーペットやタペストリー、銀製の食器等への浪費を指し、大量生産品や余暇、サービスへの浪費は含まない。
4. 我が国では、高度経済成長期に「一億総中産階級」論が隆盛を極めたが、安田三郎らの研究によれば、開放性係数の値は戦後一貫して低下傾向にあった。この矛盾を解明するために、21 世紀に入ってから「社会階層と社会移動全国調査(SSM 調査)」が開始された。
5. 社会移動は、世代内移動と世代間移動の二つに区別することができる。ある個人が人生のある時期に所属していた社会階層と別の時期に所属していた社会階層が同じでない社会移動を、世代内移動と呼ぶ。また、ある個人の親が所属する社会階層とその個人自身が所属する社会階層が異なる社会移動を、世代間移動と呼ぶ。

【No. 93】 次は、偏見や社会的性格についての記述を抜粋したものであるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. in line	Theodor Adorno	insecurity	less reliable
2. in line	Theodor Adorno	anticipation	too firm
3. in line	Herbert Marcuse	anticipation	less reliable
4. set free	Herbert Marcuse	insecurity	less reliable
5. set free	Theodor Adorno	anticipation	too firm

【No. 94】 身体と生活をめぐる学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. J. バトラーは『行為と演技』などの著書において、日常的なコミュニケーションの中でのささいな仕草や行動が、どのように意味付けられるか繊細に観察している。例えば、シンボルを媒介にして自己反省する内面を身体のうち構成する「印象操作」概念は、このような繊細な観察によって生まれた。
2. 身体の病気や怪我を治療する医師や看護師は、典型的な専門職である。高田保馬は、これら専門職は、問題解決の過程で患者の意向を酌み取ろうとするあまり、職務上要請される感情を維持することに注力し、一種の労働疎外の状況に陥りやすいと指摘した。
3. M. ヴェーバーの合理化論では、官僚制が近代社会のあらゆる組織に顕現していくと捉えられている。G. リッツァは、この観点を消費の領域にも応用して、マクドナルド・ハンバーガー店のようなファストフード・チェーンにみられる効率性や計算可能性、予測可能性などの原理が、現代では様々な生活領域に現れ、また、世界各地に拡大していくと考えた。
4. J. ハーバーマスにとって生活世界とは、言語的コミュニケーションを通じた相互抑圧の世界である。この、生活世界によるシステムの植民地化という問題状況から出発して、非戦略的で対等なコミュニケーションを取り戻す方法論を追求する中で、公的領域において人々が無意識に適用している真理性・正当性・誠実性などの諸原則が導出された。
5. 生活環境主義とは、地域社会で維持されてきた伝統的生活システムが、生態系(エコシステム)を脅かすメカニズムを明らかにする立場である。例えば、地域内の共同占有権が、近代においては個人の合理的目的追求によって共有資源を枯渇させる「共有地の悲劇」につながることを明らかにした G. ハーディンの立場が、これに当たる。

【No. 95】 社会問題の構築主義に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. B. K. マリノフスキーは、社会問題について理論的検討を行った。マリノフスキーは、社会問題を逸脱行動と社会解体の二つに分け、後者に関連して、システムの目標達成に逆機能的な事象を「社会問題」と定義した。さらに、社会の成員と社会学者が共に社会問題とみなす「顕在的」社会問題、社会の成員は社会問題とみなさないが社会学者が社会問題とみなす「偽の」社会問題、社会の成員は社会問題とみなすが社会学者は社会問題とみなさない「潜在的」社会問題という分類を提示した。
2. 社会問題の具体的な例の一つとして、逸脱行動が挙げられる。J. S. コールマンは、犯罪や非行などの逸脱は、社会的なラベリング過程によって構成されると考えた。社会集団は、これを犯せば逸脱になるような規則を設け、それを特定の人々に適用し、彼らにアウトサイダーのレッテルを貼ることによって逸脱を生み出す。コールマンは、逸脱したとされた個人や集団よりも、逸脱を定義する社会的権力に着目する「構造化理論」を提起した。
3. H. スペンサーと J. I. キツセは、従来の社会問題研究で支配的だった社会問題の定義の仕方を、機能的定義と規範的定義に整理して批判的に検討した。社会問題があらかじめ実在するから、社会問題への対処を求める言説や活動が生まれると考えるのではなく、人々が何らかの状態を社会問題として定義し、それへの対処を求めるからこそ、その状態が社会問題として捉えられると考えた。このようなアプローチは、後に「社会的ネットワーク分析」と呼ばれ、多くの学問分野に影響を与えた。
4. 社会問題が構築される際に重要となる活動が「クレーム申し立て活動」である。これは、「困った」、「不都合な」、「非道な」、「不当な」といった、放置しておけない事柄や出来事、事態があるから、何らかの対処をしてほしいと要求する、特定の集団や組織の内部における訴えを表す。N. J. スメルサーの提唱した「人間関係論」は、メディア報道、大衆の反応、政策の形成・実施・影響といった、クレーム申し立て活動に反応する一連の活動の発生、性質、持続について説明するために提案されたモデルである。
5. J. G. ベストは、「クレームのレトリック」分析を提起した。ベストによれば、社会問題のクレームは、①前提(問題となる状況を記述すること)、②論拠(なぜその問題があってはならないのかを説明し、何をしなければならぬのかを正当化すること)、③結論(その社会問題に対処するための行動や解決策の提示)の三つの要素によって構成される。

No. 96～No. 100 はⅢ部**科目 13. 社会心理学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 96】 文化による人間心理の差異に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. H. R. マーカスと北山忍によって提唱された文化的自己観とは、特定の社会において歴史的に形成、共有された、自己又は人一般についてのモデル、若しくは通念のことである。この通念の内容は国や地域や民族によって異なる。米国をはじめとする北米諸国では、間人主義が優勢である。これは、「自己とは、他の人や周りの事象と結び付いて社会的ユニットの構成要素となる関係志向的な実体であり、周囲に自らを合わせようとする存在である」という文化的共有信念である。

イ. R. E. ニスベットは、認知と思考の様式における文化差に関する理論モデルを提起した。彼によれば、東洋人のものの見方や考え方は分析的であり、西洋人のそれは包括的であるという。分析的思考とは、決められた目標あるいは解決に向かうような思考である。他方、包括的思考とは、与えられた情報から様々な可能性を考慮して、新しい解答を生み出していくような思考である。

ウ. 表情表出には文化普遍性があると主張されているが、文化差の存在も指摘されている。P. エクマンらの実験では、日本人と米国人の実験参加者に不快な動画を見せ、表情を観察した。すると、実験者が同室せずに一人で動画を見ている状況では、日本人も米国人も同様の嫌悪や恐怖の表情を見せたが、実験者が同室した状況では、日本人参加者は笑顔を見せた。この結果から、社会には、どのような状況でどのような表情を表出すべきかに関する表示規則があることが示唆された。

エ. 様々な文化の捉え方として、「集団主義－個人主義」という次元に基づく分類が、多くの研究で活用されている。集団の統制と個人の自律性の欲求が葛藤するような事態で、集団全体の統制や目標を優先する考え方を集団主義、個人の自律性や目標を優先する考え方を個人主義と呼ぶ。これまで、西洋文化は個人主義、東洋文化は集団主義という考え方が通説とされてきた。しかし近年、日本人は集団主義的という考え方を否定する結果が得られており、この考え方に疑義が呈されるようになってきた。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 97】 帰属理論や帰属の誤りに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. H. H. ケリーは、人は因果図式(causal schemata)を用いて、様々な観察による情報から出来事の生起と共変する要因を探し、出来事の原因を推測すると考えた。原因の推測には、一貫性(consistency)、弁別性(distinctiveness)、合意性(consensus)の情報が用いられる。例えば、一貫性が高く、弁別性と合意性が低い場合、出来事の原因は「状況」に帰属される。
2. E. E. ジョーンズと K. E. デーヴィスの対応推論理論(correspondent inference theory)では、行為の原因が行為者の内的属性に帰属される条件を説明している。対応とは、観察された行為が行為者の属性を反映する程度を示す概念である。対応度の高い推測が生じる状況として、選ばれた行為の結果が社会的に望ましくない場合や、その行為に伴う非共通効果(noncommon effects)の数が少ない場合などを挙げている。
3. D. T. ギルバートは、他者の行為の観察から、その行為に対応した内的特性を推論するプロセスに関する段階モデルを提唱した。最初に①「行動のカテゴリー化」、次に②「状況要因の考慮」、最後に③「内的特性の当てはめ」が行われる。このモデルによれば、①の段階は自動的に行われるが、②と③の段階は認知資源を必要とする。状況要因が熟考されるため、行為者の内的特性の要因を過小評価する対応バイアスが生じるとされる。
4. 合意性バイアス(false consensus bias)とは、実際には偶然によって生じている事象でも、自分の統制力を過大に見積もり、自身の意図と能力によって統制できると錯覚することを指す。このバイアスが生じる原因の一つとして、事柄の珍しさの判断に際して、その具体的事例を自分がどの程度容易に思い付くことができるかを根拠にする、代表性ヒューリスティックが挙げられる。
5. 自己中心性バイアスとは、自分にとって都合の良い結果は、その原因を自分自身に帰属するのに対し、不都合な結果の原因は、自分以外の外部に求める傾向を指す。自分の行為が実際よりも周囲の注目を集めていると思い込む透明性の錯誤や、自分の心の中を実際以上に他人から見透かされていると感じるスポットライト効果などは、自己中心性バイアスの一つである。

【No. 98】 S. ミルグラムによる服従実験に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

なお、図は、実験参加者が服従実験で参照した電撃発生装置の制御パネルの表示を示す。

ア. 服従実験に関する成果は、人がいかに「権力に服従するか」が強調されがちである。しかし、例えば、2名の実験者によって実験が進められ、途中でそれぞれの実験者から実験の続行と中止という矛盾した命令がなされる条件では、服従率が0%となった結果もみられ、どのような要因が不服従をもたらしたのかを明らかにすることの重要性も指摘されている。

イ. 服従実験の実施に際しては、実験参加者から実験を続けることへのためらいや懸念が表明された際には、実験者が実験参加者に対して実験を続行するように促す台詞が複数用意されていた。これらの台詞を聞いてもなお、実験の続行を拒否したときには、その時点で実験は終了となった。

ウ. ミルグラムは服従実験を実施する前に、精神科医や大学生などを対象に、実験者の指示に実験参加者がどの程度従うかを予想させていた。その結果、大学生は「非常に激しいショック」から「危険 強烈なショック」(図参照)までは行くと予想した者が約半数に上った。一方で、精神科医は実際の実験の結果と類似した予想であった。

エ. 服従実験に関する成果は、アイヒマン裁判の閉廷後に公表されたこともあり、多大な影響を及ぼした。ミルグラムの研究を受け、その後には、集団からの圧力に対する「同調」に関する研究が始まった。また、研究成果が重視されたため、服従実験の実験手続における倫理的配慮に対する批判については、その当時に議論されることはなかった。

著作権の関係のため、掲載できません。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

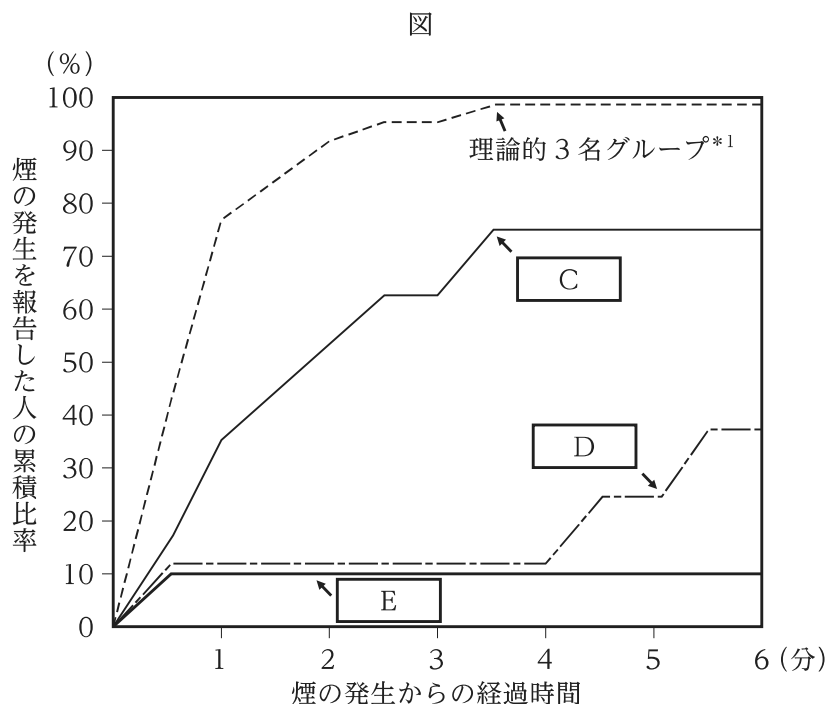
【No. 99】 次は、緊急時における援助行動に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、C、D、Eは図中の各条件であり、C、D、Eには㉔、㉕、㉖のいずれかが入る。

緊急時の援助行動に関する研究の端緒は、1964年に起こったキティ・ジェノヴィーズ事件と言われる。この事件を受け、その後にB. ラタネとJ. M. ダーリーは一連の実験を行い、援助すべき緊急事態に出くわしている人が多数いるにもかかわらず、介入が起こらない原因を追求し、A の存在を明らかにした。

上記実験の一つとして実施された「白煙」実験では、実験参加者が待合室で予備質問紙に回答中、室内に白煙が充満し始めたとき、実験参加者が部屋を出て煙の発生を報告しに行くかどうかを記録し、そうするまでに掛かった時間を測定した。図は、各条件における煙の発生を報告した実験参加者の累積比率を示している(Latané & Darley, 1968を基に作成)。

A が生起する理由は、責任の分散、B、評価懸念によって説明されている。



C、D、Eの候補

㊦：実験参加者 3 名

㊧：実験参加者 1 名+消極的サクラ*² 2 名

㊨：実験参加者 1 名

*1 理論的 3 名グループは、相互作用の影響がないと仮定した場合に、3 名のうち少なくとも一人が報告する確率を計算したものである。

*2 消極的サクラは、白煙を無視し、何もしないよう教示された実験協力者である。

	A	B	C	D	E
1. 社会的手抜き		割引原理	㊨	㊦	㊧
2. 社会的手抜き		多元的無知	㊦	㊨	㊧
3. 傍観者効果		多元的無知	㊧	㊦	㊨
4. 傍観者効果		多元的無知	㊨	㊦	㊧
5. 傍観者効果		割引原理	㊦	㊨	㊧

【No. 100】 司法・犯罪心理学分野における理論や研究に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 現代犯罪学の父と呼ばれる C. ロンブローゾは、特定の生物学的特徴と犯罪行動との関連を主張した。しかし、ロンブローゾによる骨相学に基づいた生来性犯罪人説は、実際の観察データに基づかない主張であり、実証的ではないと批判があった。今日における生物学的理論では、実証的研究に基づき、単一の生物学的要因が、より直接的に犯罪行動と結び付くと考えられている。
2. L. E. コーエンと M. フェルソンによる犯罪パターン理論は、犯罪を企図する者(動機づけられた犯罪者)と、犯罪被害に遭うリスクのある標的(格好の犯行対象)の二つの要因が、時空間的に同時に存在することが、犯罪を引き起こすと主張するものである。第二次世界大戦後の米国において、所得が減少して生活環境が劣悪になったことで財産犯罪が増加したという現象は、この理論を用いて説明することができる。
3. R. E. ガイゼルマンと R. P. フィッシャーは、犯罪捜査において協力的な目撃者や被害者から得られる証言の量と質を高める手法として、動機づけ面接を開発した。動機づけ面接は、被聴取者に対して、事件が起こった際の周囲の状況や様子などを心の中で再構成すること、事件に関して特に重要で正確に記憶していることだけ報告すること、という二つの教示を行う面接手法である。
4. T. ハーシは、「人はなぜ社会のルールに従わないのだろうか」という問いの下で、社会的絆理論を提唱し、犯罪は、個人と社会との間のアタッチメント(愛着)、コミットメント(投資)、インボルブメント(巻き込み)の三つの絆が弱まったときに生じるものとした。ハーシは、特に友人との絆が犯罪抑止に重要であることを指摘し、M. R. ゴットフレッドソンと共に犯罪一般理論を展開した。
5. D. B. コーニッシュと R. V. クラークは、個人が数ある選択肢の中から自由な判断に基づき、最大利得を目指して行動する合理的人間観を前提とする合理的選択理論を、犯罪諸科学領域に応用した。犯罪者は犯罪実行時に、何らかの不確実で制約のある状況下での意思決定を要するため、コーニッシュとクラークは、人の意思決定は必ずしも十分には合理的ではないという限定合理性の概念を合理的選択理論に導入し、犯罪者の犯罪行動や意思決定を説明した。

No. 101～No. 105 はⅢ部**科目 14. 現代社会論**です。

科目 1～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 101】 災害と社会に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 災害に関する社会学は、米国においては冷戦末期、我が国においては東日本大震災以降に組織的研究が開始された。その際、地震や水害などの具体的な災害対策の遂行に關与する理学や工学など他の研究や、実践を担う行政とは一線を画し、理論研究を中心に発展してきた。
2. U. ベックは、予測や計算の不可能な不確実性を「リスク」、推測、測定及び計算が可能な不確実性を「危険」と定義付け、現代はリスク社会であると主張した。そして、原発事故や地球温暖化、狂牛病などの人工的な大災害を「リスク」に分類し、これらの災害が登場したのは近代化が失敗したためであると結論付けた。
3. 第二次世界大戦前の我が国において、災害時には、被災者・支援者を含めた関係者が一体となって被災地・被災者を支援していこうとする、災害コミュニティの一種である「結節機関」が立ち現れていたが、戦後の日本社会においては、地域共同体の解体が進んだことにより、地域で災害や危機が生じて、結節機関が形成されることはなくなった。
4. E. モランは、『オルレアンのうわさ』の中で、都市伝説から立ち上がったうわさが流れた際に、人々が冷静に対応したことで、うわさが収束する様子を示した。他方、令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震の被災地においては、真偽の不確かな情報が SNS 上で拡散され、自治体等の救助活動等に影響を及ぼした。このような現象を「ダブル・コンティンジェンシー」という。
5. 災害関連死とは、地震による建物の倒壊や津波などによる直接的・物理的な原因ではなく、災害による負傷の悪化や避難生活等の身体的負担による疾病により死亡することを指し、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では、災害関連死が地震による直接の死者数を上回っている。

【No. 102】 グローバリゼーションと社会に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. グローバル化を主導する多国籍企業は、全地球上に張り巡らされた情報と金融のネットワークに基づき、国境を越えて効率的なオフィス・工場の再配置を行っている。A. トゥレーヌは、こうした人・資本・情報の国際的流動化の結果として、グローバル・シティには中枢管理機能を担うエリート層が集中するので、かえって都市内の空間的分極化は観察されにくくなると論じた。
2. 北米大陸や西ヨーロッパは、第二次世界大戦後の復興期に外国からの労働力の顕著な増加を経験した。これら移民一世の子世代である二世以降の世代は、受入国の市民権をもち、国民として同化された。各国で外国人排斥を目指す社会運動や政党は 21 世紀以降、こうした二世以降ではなく新たにやってくる移民を標的にしている。
3. グローバリゼーションが進展する中、かえってナショナリズムが世界各地で活発化し、激しい民族紛争が起こっている。E. ゲルナーは、祖先から受け継いだ土地と情緒的なつながりをもち、集合的記憶によって結束した歴史的共同体を重視する立場から、このような共同体(エトニ)が解体した結果、紛争が生じやすくなると指摘した。
4. 20 世紀後半以降にグローバリゼーションをめぐる議論が盛んになった背景には、J. フリードマンのいう「時間－空間の圧縮」という現象がある。すなわち国境を越えた均等なメディアの配置や交通の普及により、人々は支配や階層から自由になり、また、地球全体がつながっているという感覚を新たに得た。
5. 国民国家内部の文化的多様性がグローバリゼーションによって増大すると、新たな国民統合の在り方が模索されるが、その解答の一つとして多文化主義(multiculturalism)がある。この考え方は、第二次世界大戦後の欧米諸国で活発化したエスニック・マイノリティの権利回復・地位向上運動の中から発展し、一部の先進諸国で政策化された。

【No. 103】 個人や家族をめぐる関係性に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. N. エリアスは、親子の親密な関係性は、歴史的に不変なものではなく、近代以降に一般化したと主張した。エリアスによれば、中世ヨーロッパ社会には今日のような保護されるべき「子ども」という観念はみられず、子どもたちは「神の生まれ変わり」と捉えられていた。近代以降に、子どもたちは次第に無知で無垢な存在とみなされ、教育的配慮と可愛がりが必要な「子ども」という観念が誕生した。
2. 近年、夫婦と未婚の子のみの世帯を標準とする考えは崩れつつあり、家族の状況を捉える指標の一つである世帯構造の割合が大きく変化している。「2024(令和6)年 国民生活基礎調査」(厚生労働省)において昭和61年と令和6年を比較すると、「夫婦と未婚の子のみの世帯」は全世帯の約41%から約24%に減少した。一方で、「夫婦のみの世帯」は約18%から約35%に上昇し、世帯構造の中で最も高い割合を占めている。また、「単独世帯」の割合は約15%から約3%にまで減少した。
3. セクシュアリティとは、生殖を目的とした性行為に限定されない、あらゆる性的欲望や性行動など、多様な性の在り方を表す言葉である。これまで「女性らしさ」や「男性らしさ」がいわれるときには異性愛が当然視されてきたところ、近年は、こうした前提が異性愛中心主義と批判され、ゲイ解放運動やクィア運動の興隆にみられるように、性的少数者による社会運動が盛んに行われている。
4. 家族やパートナー関係が多様化・複雑化する中で、親密な関係性の問い直しが進んでいる。例えば、「アセクシュアル」は、他者に対して恋愛感情を抱かない指向を表し、「アロマンティック」は、他者に対して性的関心を抱かない指向を表している。また、一夫一妻制のように、特定のパートナーのみと関係を結ぶのではなく、関係者全員が合意の上で、複数のパートナーと関係を結ぶことは「モノガミー」と呼ばれている。
5. 「社会関係資本」とは、個人的又は社会的な資源として利用可能性の高いつながりやネットワークを表す概念である。N. ルーマンは、社会関係資本を同質的な人々を強くつなげる「橋渡し型」と、多様な人々を緩やかに結ぶ「結束型」の二つに分けて、社会の接着剤として機能する前者だけでなく、社会の潤滑剤としての効力がある後者の役割にも注目した。また、N. リンは、「橋渡し型」が既存の資源の維持に有効であるのに対し、「結束型」は新たな資源の獲得に効果を発揮すると指摘した。

【No. 104】 現代社会と社会調査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 近代化に伴う個人化の一形態として私事化(privatization)現象がある。人々の関心の比重が私生活領域よりも公的領域へと向かうことであり、これにより、プライバシー権や個人情報保護への社会的要請も高まった。他方、社会調査は政策立案の重要な根拠となることに鑑み、個人情報の保護に関する法律において、政府が実施する社会調査は同法の適用除外である旨が規定されている。
2. インターネット調査会社に登録したモニターがインターネット上で回答する「ミックスモード調査」は、迅速・手軽に調査実施できるメリットがある。登録モニターは、性別・年齢・地域等の住民登録情報に合わせてウェイト付けすれば市民全体の縮図になるため、公的名簿からの無作為抽出標本に代替して、政策形成を目指す調査の基礎として利用することは正当化される。
3. 報道各社が実施する内閣支持率調査等において、21 世紀に入って多用されているのが RDD (Random Digit Dialing) 法である。各社は住民基本台帳に基づき電話局番毎のデータベースを作り、そこから無作為抽出された世帯用電話番号に調査員が電話する。母集団が明確に定義され、かつ短期間のうちに結果が得られるので、信頼性が高い。
4. 統計法上の基幹統計である国勢統計を作成するための国勢調査は、1920 年から原則として 5 年ごとに実施されている。しかし、留置調査法のみでは調査拒否世帯の増加など困難に直面するようになった。そこで、2010 年調査からは回答者が郵送提出を、また、2015 年調査からは全国でインターネットによる回答を選べるようになっている。
5. 大学・研究所等が実施した量的社会調査の個票データを収集・整理・保存し、同一回答者に再調査する二次分析を希望する者に貸し出す仲介を行う機関を、データ・アーカイブという。我が国でも社会調査環境の悪化に伴い、東京大学社会科学研究所において、国内初のデータ・アーカイブとして SSJDA (Social Science Japan Data Archive) の設立が、今後予定されている。

【No. 105】 移民等についての学説や、我が国の外国人施策に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. H. アーレントは、20 世紀末から 21 世紀以降を「国際移民の時代」と呼び、その特徴を、移民のグローバル化・液状(リキッド)化・周辺化・脱呪術化・女性化の五つにまとめた。移民のグローバル化とは、ますます多くの国が移民の移動に影響を受けるようになっていることを指し、移民の女性化とは、2000 年以降、多くの女性が移民労働者となっていることをいう。

イ. G. ジンメルは、「異邦人」を潜在的漂泊者と位置付け、その影響を受けた R. E. パークは、発達する 20 世紀の米国社会の中で、マージナル・マン概念を提起した。マージナル・マンとは、地域的な移動、階層的な移動、文化間での混交などによって、複数の異質な社会集団の境界上にある人間のことを指す。

ウ. W. I. ウォーラーステインは、国際移民現象について、諸個人の合理的な選択による発展途上国から先進国への線形的な移動であるとし、移動のプッシュ要因とプル要因の分析を行った『モビリティーズ』を著した。これは、それまで移民現象を親族関係や友人といった社会的な紐帯が果たす多様な機能から捉えてきた従来の社会学に移動論的転回を与え、モビリティーズ・スタディーズの発展に寄与した。

エ. 我が国では、深刻化する人手不足への対応として、生産性の向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れるため、平成 31 年 4 月に在留資格「特定技能 1 号」及び「特定技能 2 号」が施行された。

1. ア
2. ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

科目別構成の詳細

科 目	出題数	問 題 番 号	ペ ー ジ	解 答 題 数
I 部 必須問題	5 題	No. 1～No. 5	1～5	5
II 部 選択A、選択Bから一つ選択	(30 題)	(No. 6～No. 35)	(7～38)	15
選択A (心理系)	15 題	No. 6～No. 20	7～22	
選択B (教育・福祉・社会系)	15 題	No. 21～No. 35	23～38	
III 部 14 科目から 4 科目選択	(70 題)	(No. 36～No.105)	(40～110)	4 科目選択 20
科目 1. 認知心理学	5 題	No. 36～No. 40	40～45	
科目 2. 臨床心理学	5 題	No. 41～No. 45	46～50	
科目 3. 教育環境学	5 題	No. 46～No. 50	51～55	
科目 4. 教育心理学	5 題	No. 51～No. 55	56～60	
科目 5. 教育経営学	5 題	No. 56～No. 60	61～65	
科目 6. 教育方法学	5 題	No. 61～No. 65	66～70	
科目 7. 社会福祉総論	5 題	No. 66～No. 70	71～75	
科目 8. 社会福祉各論	5 題	No. 71～No. 75	76～80	
科目 9. 福祉計画論	5 題	No. 76～No. 80	81～85	
科目10. 地域福祉論	5 題	No. 81～No. 85	86～90	
科目11. 社会学(理論)	5 題	No. 86～No. 90	91～95	
科目12. 社会学(各論)	5 題	No. 91～No. 95	96～100	
科目13. 社会心理学	5 題	No. 96～No.100	101～106	
科目14. 現代社会論	5 題	No.101～No.105	107～111	
合 計				40

解答方法

I 部の必須問題 5 題(No. 1～No. 5)を全て解答するとともに、**II 部の選択A又は選択B**(それぞれ 15 題ずつ)からどちらか任意の一つ、及び、**III 部の 14 科目**(各科目 5 題ずつ)から任意の 4 科目(20 題)を解答し、合計 40 題を解答してください。

C1C2－2026 人間科学 専門（多肢選択式）

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答	No	正答
1	4	31	2	61	1	91	1
2	2	32	4	62	5	92	5
3	2	33	3	63	4	93	1
4	3	34	3	64	3	94	3
5	1	35	4	65	1	95	5
6	5	36	4	66	1	96	5
7	5	37	1	67	3	97	2
8	3	38	1	68	1	98	1
9	2	39	2	69	4	99	4
10	2	40	5	70	2	100	5
11	4	41	5	71	5	101	5
12	2	42	2	72	1	102	5
13	5	43	3	73	1	103	3
14	1	44	3	74	2	104	4
15	1	45	4	75	5	105	5
16	4	46	1	76	4		
17	1	47	3	77	2		
18	2	48	1	78	5		
19	3	49	2	79	4		
20	3	50	3	80	4		
21	2	51	2	81	1		
22	4	52	3	82	4		
23	1	53	4	83	5		
24	5	54	3	84	4		
25	3	55	3	85	5		
26	5	56	5	86	1		
27	3	57	5	87	2		
28	2	58	4	88	2		
29	2	59	2	89	3		
30	4	60	3	90	1		